

実績報告書

0歳～2歳児と親が笑顔になるワークと 施設スタッフの支援力向上事業

ワークショップ17か所

- | | |
|--|--|
| ■西白井複合センター レクホール9月24日(金)
ワーク：おやこでいっしょにダンスあそび！ | ■松戸市 おやこDEひろば小金原 10月22日(金)
ワーク：おやこでいっしょにダンスあそび！ |
| ■乳児院イーハトーブ 10月6日(水)
ワーク：わらべうたあそび うたとおはなしのじかん | ■印西市そうふけつどいの広場 10月22日(金)
ワーク：にこにこげきじょう |
| ■認定こども園 四街道さつき幼稚園 10月12日(火)
ワーク：おやこでいっしょにダンスあそび！ | ■横芝光町子育て支援センター横芝 10月28日(木)
ワーク：おやこでニコニコふれあいあそび！ |
| ■成田市三里塚なかよしひろば 10月14日(木)
ワーク：歌子さんのはじめてのコンサート | ■習志野市こどもセンター 11月11日(木)
ワーク：親子でいっしょにダンスあそび！ |
| ■市川市昭和学院もこもこ・こどもセンター10月18日(月)
ワーク：おやこでニコニコふれあいあそび！ | ■ひよしだい保育園 11月17日(水)
ワーク：歌子さんのはじめてのコンサート |
| ■千葉市小倉台中央自治会館(小倉台いろは保育園)
10月18日(月)
ワーク：にこにこげきじょう | ■佐倉市臼井老幼の館 11月25日(木)
ワーク：おやこでいっしょにダンスあそび！ |
| ■袖ヶ浦市根形公民館 10月20日(水)
ワーク：にこにこげきじょう | ■市原市里見小規模保育所 11月30日(火)
ワーク：歌子さんのはじめてのコンサート |
| ■野田市北コミュニティーセンター10月21日(木)
ワーク：にこにこげきじょう | ■NPO法人ねむの里保育所 2月21日(月)
ワーク：おやこでニコニコふれあいあそび！ |
| | ■コミュニティ長柄 養育室 2月25日(金)
ワーク：わらべうたであそぼ！ |

支援力向上講座6か所

- | | |
|--|--|
| ■認定こども園 四街道さつき幼稚園 8月27日(金)
講座：支援者のための わらべうた講座 | ■成田市もりんぴあこうづ 11月1日(月)
講座：えがおがいっぱい表現あそび |
| ■千葉市植草学園短期大学保育課学生 10月18日(月)
講座：子どもと遊ぶための人形づくり講座 | ■佐倉市臼井老幼の館 11月22日(月)
講座：えがおがいっぱい表現あそび |
| ■市川市八幡親子つどいの広場 10月21日(木)
講座：えがおがいっぱい表現あそび | ■印西市子育て支援課(印西市文化ホール多目的室)
11月25日(木)
講座：豊かな遊びわらべうた |

ごあいさつ

この事業は「プロによる芸術の力を活用した子育て支援を行政との連携で行う」事業です。子ども劇場千葉県センターでは、2017年度から「乳幼児の育ちと芸術」の研究会を立ち上げ、その学びの中で「非認知能力」という言葉を耳にしました。

『非認知能力』とは、将来生きていく基本となる人間として生きていく力ですが、それを身につけるのに最適な時期は「乳幼児期」であること、そして乳幼児期の成長発達を応援すること、五感に働きかけることの重要性が、脳科学の研究者や専門家等からも注目され提唱されています。子どもの教育に国が政策としてお金を使うなら、「乳幼児期に投資する」というのが世界の流れになっていることも知りました。

改訂され2018年4月から適用されている新「保育所保育指針」には、子ども・子育て事業に係わる大切な指針として、乳幼児期から小学校へ続く成長発達の考え方が示されています。乳幼児期は、基本的信頼感を形成する時期であり、保育者(親)とのアタッチメント(愛着)が重要であることも強調され、非認知能力が育つ時期で「いっそうの配慮が望まれている」と明記されています。

子育て支援は市町村行政の施策として重要な施策の柱となっています。県内54市町村では虐待の未然防止や対応を意識し、切れ目のない支援、0歳～2歳児とその親支援を手厚くしています。県内54市町村を訪問し、NPOである私どもにも「乳幼児と親支援を担わせて頂きたい」「市町村でやっておられる子育て施策に協力したい」という素朴な願いと、強い動機を持って始めた事業です。改めて乳幼児期の子どもの育ちの重要性に着目し、行政との連携事業の強化と、プロによる芸術的なプログラムを市町村の子育て支援施策に反映することを最終的な願いとしております。

今年度コロナ禍の中、ワークショップを17か所で、支援力向上講座は6か所で実現できました。助成1年目の令和2年度の成果を引き継ぎ、課題は令和3年度の行動計画に落とし込み、課題解決を図りました。令和3年度は、主にめざした行政との連携強化と4つの成果目標を設定し、願いの実現のために丁寧なはたらきかけと、信頼を得られるよう誠実に対応してまいりました。プロのパフォーマーによる芸術力により、たくさんの親子の笑顔に出会い、行政、施設、ネットワークの主体的な取り組みがすすみ、新たな課題もみつかりました。また、赤ちゃんの反応や表情が、驚くばかりの感性の豊かさと、支援の在り方を私たちに教えてくれました。今年度も共感の輪がさらに拡がり、多くの方々とご一緒にできたことに感謝しております。また、貴独立行政法人福祉医療機構 令和3年度社会福祉振興助成をいただき、実施できましたことに厚くお礼を申し上げます。

(特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事長 宇野京子)



Contents

事業の目的 実施実績 成果と課題	2P～ 5P
4つの成果目標に対するアンケート分析	6P～ 3P
成果報告会の報告 提言	14P～17P
17か所のワークショップと6か所の支援力向上講座報告	18P～38P

1 事業名：「0歳～2歳児と親が笑顔になるワークと施設スタッフの支援力向上」事業

2 事業概要と目的

- ①乳児を研究し尽くしたプロの芸術家により、あそびやわらべ歌やダンス等のワークショップを行い、親子いっしょに笑顔で楽しむと共に、成長発達に添った日常生活に活かせるあそびのスキルを身につける。
 - ②親子を支援する施設の保育士や支援スタッフを対象に、芸術家の指導による支援力向上の講座を開き、親子へのかかわり方やあそびの専門性を高める。
- 県内市町村行政の連携と協力を得てワークショップは15か所、講座は5か所、子育て支援施設、児童センター、子育てひろば、保健センター、保育園等で実施する事業。

3 対象

- ワーク：0歳～2歳児と子育てをしている親・家族
- 講座：親子を支援する施設の保育士や支援スタッフ

4 実施期間

2021年4月～2022年3月

5 実施体制

■コア会議の開催 6回開催

コア会議メンバー7名：買場都明 滝口淳子 鈴木佳子 岡田泰子 椎名好子 大森智恵子 中村雪江

- 第1回：2021年4月19日(月) 10:00～12:00 オンライン
- 第2回：2021年6月9日(木) 10:00～12:00 オンライン
- 第3回：2021年7月7日(木) 10:00～12:00 オンライン
- 第4回：2021年11月20日(土) 19:30～21:00 オンライン
- 第5回：2021年12月23日(木) 10:00～11:45 オンライン
- 第6回：2022年3月24日(木) 9:00～13:00 千葉市民活動支援センター

■推進プロジェクト会議 3回 オンライン

推進プロジェクト会議メンバー22名

佐野裕子 久留島太郎 小島久子 納富俊郎 大沢 愛 大森靖枝 安西真幸 宇野京子
岡田泰子 大森智恵子 買場都明 笠原直子 桑原信子 椎名好子 白鳥みゆき 鈴木佳子
滝口淳子 棚田純子 中川香子 中村幸恵 中村雪江 綿貫のぼら

- 第1回 2021年6月21日(月) 14:00～16:00
自己紹介 事業の目的 概要 めざすこと意見交換や交流
- 第2回 2021年12月7日(月) 19:00～21:00
進捗報告 課題解決 意見交流 行政との連携について ワークや講座の内容の交流
- 第3回 2022年3月17日(木) 19:00～21:00
WAM事業成果報告会の報告とまとめ・今年度事業の成果と課題

6. パフォーマー・講座講師及び作品提供

- ★人形劇団ののはな 納富俊郎・納富祥子：人形劇「にこにこげきじょう」と人形づくり講座
- ★劇団風の子 大森靖枝：表現あそび「おやこでニコニコふれあいあそび！」
- ★表現教育研究所 大沢 愛：わらべうた「うたとおはなしのじかん」
- ★リーフ企画 歌子さん ぴんたろーさん：歌や楽器に触れる「歌子さんのはじめてのコンサート」
- ★ダンスパフォーマー 安西真幸：体を動かしてダンス「おやこでいっしょにダンスあそび！」
- ★山の音楽舎 川中美樹：わらべうた「豊かな遊びわらべうた」



推進プロジェクト会議 オンライン

7. ワーク事業実績 17か所 参加数 470人

子ども 225人 (0~6か月未満 13人 6か月~1才未満 31人 1才 85人 2才~2才未満人 61人
2才半以上3才未満 20人 3才以上 15人)

保護者 135人(母親 130人 父親 5人)

施設職員 94人(保育士・看護師・スタッフ等) 行政職員 16人(子育て支援課 子ども政策課)

	ワーク 実施か所	日 時	パフォーマー	参加者				
				計	子ども	保護者	施設職員	行政
1	西白井複合センター レクホール	9月24日(金) 10:30~11:15	安西真幸	27	12	12	2	1
2	乳児院イーハトーブ	10月6日(木) 10:00~11:00	大沢 愛	22	14	0	8	0
3	認定こども園 四街道さつき幼稚園	10月12日(火) 11:00~11:40	安西真幸	22	10	7	5	0
4	成田市三里塚なかよしひろば	10月14日(木) 10:30~11:30	歌子さん	31	13	12	5	1
5	市川市昭和学院もこもこ・こどもセンター	10月18日(月) 10:10~11:10	大森靖枝	19	7	7	3	2
6	千葉市小倉台中央自治会館 (小倉台いろは保育園)	10月18日(月) 10:15~10:55	納富俊郎	19	14	0	5	0
7	袖ヶ浦市根形公民館	10月20日(水) 10:30~11:10	納富俊郎	28	11	9	6	2
8	野田市北コミュニティーセンター	10月21日(木) 10:30~11:10	納富俊郎	14	6	4	4	0
9	松戸市 およこ DE ひろば小金原	10月22日(金) 10:00~10:50	安西真幸	14	6	6	2	0
10	印西市そうふけつどの広場	10月22日(金) 11:00~11:40	納富俊郎	28	12	10	2	4
11	横芝光町子育て支援センター横芝	10月28日(木) 10:20~11:10	大森靖枝	38	18	16	4	0
12	習志野市こどもセンター	11月11日(木) 10:15~11:15	安西真幸	85	41	36	5	3
13	ひよしだい保育園	11月17日(水) 10:00~11:00	歌子さん	25	17	0	8	0
14	佐倉市臼井老幼の館	11月25日(木) 10:30~11:30	安西真幸	29	10	10	7	2
15	市原市里見小規模保育所	11月30日(火) 10:00~11:00	歌子さん	17	6	6	4	1
16	NPO 法人ねむの里保育所 うさぎとかめ	2月21日(月) 10:00~10:40	大森靖枝	19	11	0	8	0
17	コミュニティ長柄 養育室	2月25日(金) 10:00~11:00	大沢 愛	33	17	0	16	0
	ワーク計			470	225	135	94	16

8 支援力向上講座 実施実績 6か所 94人

	講座実施箇所	実施日時	講座講師	参加数	
				(アンケート枚数)	
1	認定こども園 四街道さつき幼稚園	8月27日(金)13:00~15:00	大沢 愛	14	(11)
2	千葉市植草学園短期大学保育課学生	10月18日(月)16:40~18:10	納富俊郎	13	
3	市川市八幡親子つどの広場	10月21日(木)16:15~18:15	大森靖枝	15	
4	成田市もりんぴあこうづ	11月1日(月) 10:00~12:00	大森靖枝	19	(18)
5	佐倉市臼井老幼の館	11月22日(月)10:00~12:00	大森靖枝	20	
6	印西市子育て支援課(印西市文化ホール多目的室)	11月25日(木)14:00~16:00	川中美樹	13	(12)
	講座 計			94	(89)



9. コロナ禍の令和3年度 主にめざした行政との連携強化と4つの成果目標設定

●主にめざした行政との連携強化

- ①令和3年度は、事業実績やデータを客観的に分析評価した資料と共に、プロによる芸術的なアプローチプログラムを施策に入れてくれるよう働きかけていく。
- ②プロの芸術家が関わる乳幼児期の子育て支援は、行政との連携協力で有効に実現する。行政の子育て支援の課題を共有し、令和2年度の成果、親や施設のニーズや期待の声を伝え、目指すところを共有することで、さらなる連携を強化していく。「虐待を絶対に起こさない」とがんばっている市町村行政の取り組みに協力していき、NPOの力を活用してもらう。
- ③アンケートやヒアリングから客観性を持たせた成果を積み上げ、提言と社会発信により共有化を図る。

●4つの成果目標設定

- ①0歳～2歳児を持つ親が、あそびのスキルを身につけて、家庭での日常生活に活かし、笑顔で毎日を過ごす一助になる。
- ②いっしょにあそびながら、乳幼児の行動や著しい成長発達を知ったり感じたりすることが、親としての喜びになり、子育てを前向きに楽しめるようになる。
- ③親子を支援する施設の保育士や支援スタッフを対象に、芸術家の指導による支援力向上の講座で、親子へのかかわり方やあそびの専門性を高める。
- ④乳幼児期からのアプローチが大切なことを、市町村行政の理解と賛同を得て、連携して取り組む。
(分析と評価・課題は、行政との連携強化は12ページ、4つの目標設定・提言は16ページに記載)

10 成果と課題

- ①どの会場でも0歳～2歳児が、じーっと集中してみる、声を出したり指さしたり、興味津々な表情、かわいらしいしぐさ、とびきりの笑顔等々感情の豊かさに、大人が目からウロコ状態で驚き感動し、改めて赤ちゃんの持つ力を認識した。その認識は行政や実施施設でさらに広がり、0歳～2歳児への支援の重要性と必要性を実感的に受け止め、理解する人が増え、連携が昨年より大きく前進した。
- ②保護者はコロナ禍の長期自粛生活で悲鳴をあげたくなるような状況であり、ワークショップに参加でき「楽しかった うれしかった」と大喜びし、気持ちも開放されてわが子への愛おしさが深まった。また、パフォーマーから発せられるメッセージや優しい語りかけが、ほっと安心する雰囲気を出し出し保護者の緊張した心身をリラックスさせ、いっぱいいっぱいになっている気持ちを癒した。
- ③支援力向上講座は、施設スタッフのニーズや希望にピッタリ合い、行政が会場確保、募集、当日運営等主体的にかかわり行政との連携が強化された。参加者も意欲的で満足度は100%。今後の継続を望む声も100%。主体的な学びで多くの気づきやスキル獲得ができ、スタッフのモチベーションが上がった。その後、日常の子育て支援の現場で活かして手ごたえを感じ、支援の質も上がり自信がもてた。
- ④プロのパフォーマーによる芸術的なプログラムの力がこの事業の肝でもある。乳幼児の成長発達を研究したプログラムはメッセージ性があり、言葉で何度語るよりも参加者に響き、その効果は驚きである。参加した行政職員やスタッフを通じ、プロによる芸術的なプログラムへの理解が更に深まった。
- ⑤課題は、コロナ禍真ただ中で昨年よりの参加者の緊張感が高かったこと、当初からの目的である行政の施策反映のためには、願いを叶えるためのネットワークを広げる必要性が見えたことである。

★コロナ禍での事業実施について実施施設へのアンケート及びヒアリング実施

<2年間継続して実施した箇所：14か所の聞き取りによる回答>



1. コロナ禍でも実施を決めた最大の理由は何でしたか？

- コロナ禍で親子で集う場が制限される中、日頃体験できない親子で楽しめる内容だとわかっていた。
- コロナ禍でお母さんたちの行き場がなく、まして芸術に触れる機会もなかったから。
- コロナ禍でも子どもの成長に「待った！」はない。子どもはマスク姿に囲まれ、表情や表現力が乏しい子育て環境になるから。当たり前にあったことがなくなった現状で、苦境を乗り越えられるように。
- 乳児院は乳幼児の生活の場で、すこやかな成長、発達には相応な生活環境が必須。コロナ禍だからこそ求められる人と人のふれあいの大切さを認識させてくれるもの。
- 子ども劇場千葉県センターの感染対策の指針はしっかりしていて、安全に行えると思い、市の子育て支援課に相談し、今までの深いつながりがあり、親子であそぶ内容だったので実施を決めた。
- 施設を休館していた時期があり、再開したときに、お母さんが「ほっとした」「自分を取り戻した」「大人とおしゃべりできてうれしい」とロク々に待っていたことや喜んで話をしてくれた。その時、「こういう施設は閉じたらいけない」と思った。コロナ禍でもできるというきっかけと自信ももてた。

2. コロナ禍であっても、施設において乳幼児の親子の活動の必要性についてどのように考えていますか？

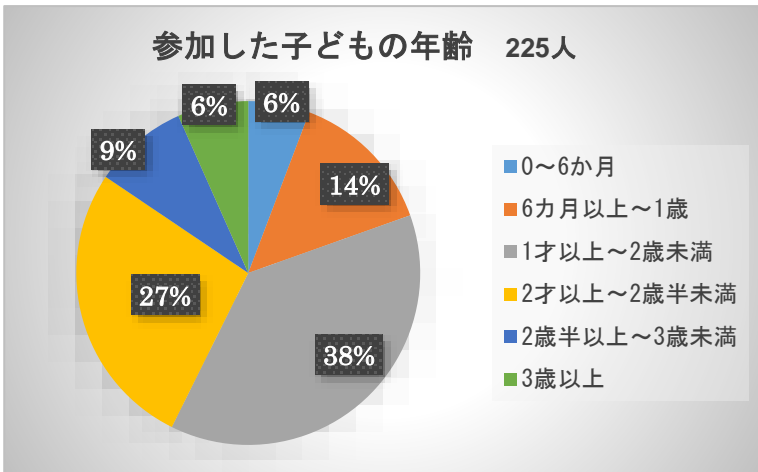
- ずっと外に一步も出ることのなかった親子の、悲鳴をあげたくなるような気持ち、地域で親子仲良く暮らしていたのに、引っ越しせざるをえなくなったご家庭もあることをきくと、コロナに対応する地域の方々の対応を考えあっていくことが大切だと考える。
- お母さんたちのつながりを考える時、親子の活動の必要性は大きく、特に新しく移転してきた人にとっては、おしゃべりできるお母さんとながれる場所だと思う。
- 子どもたちが目を釘づけにしてにこにこしている姿や、その姿を穏やかに見守る保護者の姿をみて、体験の必要性、保護者の心の癒しの必要性を感じる。
- 家の中に親子で長時間いると、どうしてもイライラ感がつわり、神経質にもなる。親子が笑顔で楽しむ姿をみて、コロナ禍でも活動はできるという確認を得た。
- 乳児にとっての1年は大きなこと。年齢で感じ方も違ってくるので、いっぱい体験させたい。
- マスク越しの養育が長期にわたり、新生児よりコロナ禍で生活を共にしてきた子どもたちは、2歳を超た。コロナ禍では、豊かな人と人とのふれあいに基づく、あたたかな支援が創造される必要がある。

3. 他 コロナに関して感じること

- リモートワークで家にいる時間が増え、家庭内のトラブルから子どもへの虐待も増えている様子を見聞きし、事故があつてからではおそく親子のストレスが軽減できるよう子育て支援を広げていきたい。
- 子どもたちの育ちを促すきっかけ、親子の愛着形成にも注目されていることなどにも共感している。ボランティアの受け入れはガイドラインのもと、各拠点の判断とボランティアの意向に任される。
- 親子講座や行事ができてない。お母さんにはリラックスさせてあげられないのが申し訳ない。講座で子育てのヒントや発育や発達について学ぶ機会が減ってしまっている。人間関係も薄くなっている。
- 開所に意味を感じる一方、職員も怖い。お子さんが抱っこして、と寄ってくると抱っこする。家庭に高齢者がいるスタッフは休んでいたり、対策をとっていても怖さはある。

※昨年参加し、今年度も参加した0歳～2歳児は6施設で40人。

★参加した子どもの年齢



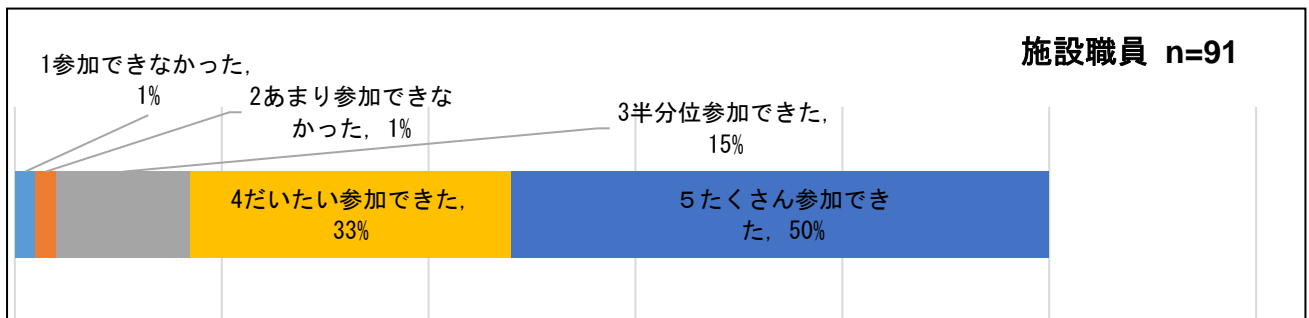
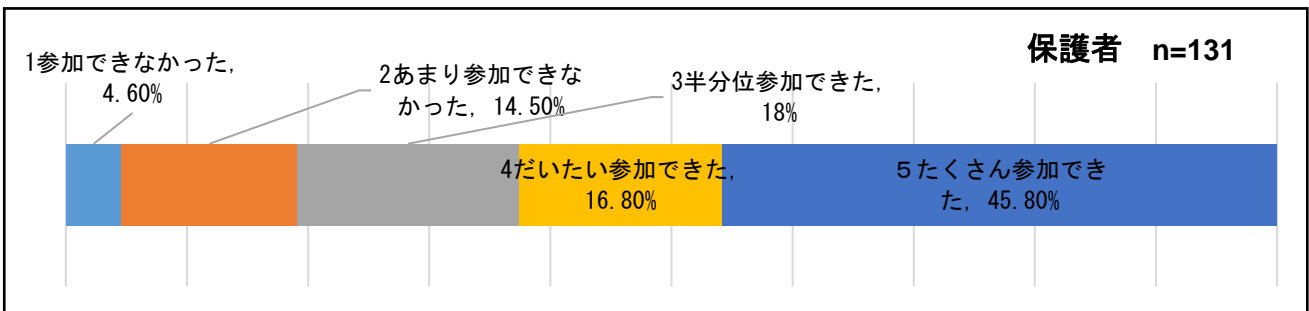
0歳～1歳未満	44人	20%
1歳～2歳未満	146人	65%
2歳～3歳未満	20人	9%
3歳以上	15人	6%
		計：225人

0歳～2歳児まで93%(210人)
 目的を達成するため、対象者を絞って的確に実施できた。歩行開始、自己主張が激しくなり、感性の発達等、非認知能力の形成がされるこの時期の子どもたちに届けられた。

■今年度の4つの成果目標に対するアンケートと自由記述からの分析と課題■

成果目標① 0歳～2歳児を持つ親が、あそびのスキルを身につけて、家庭での日常生活に活かし、笑顔で毎日過ごす一助になる。

Q 今日はいたいどのくらい参加できましたか



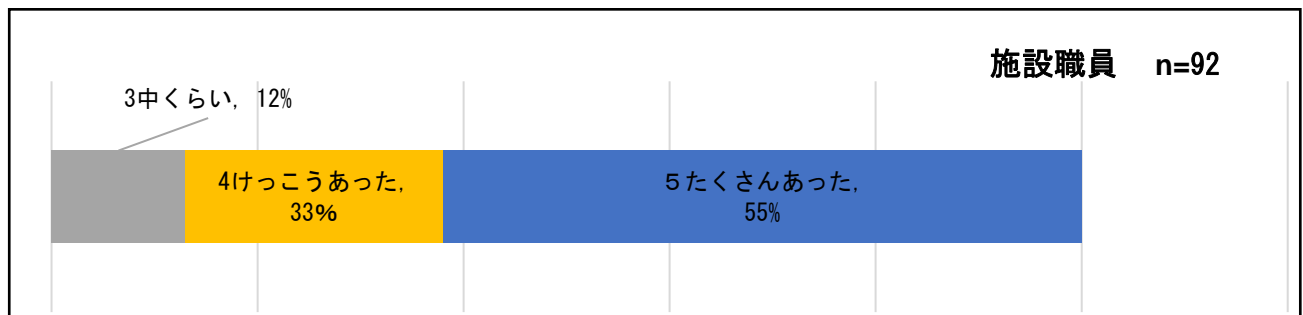
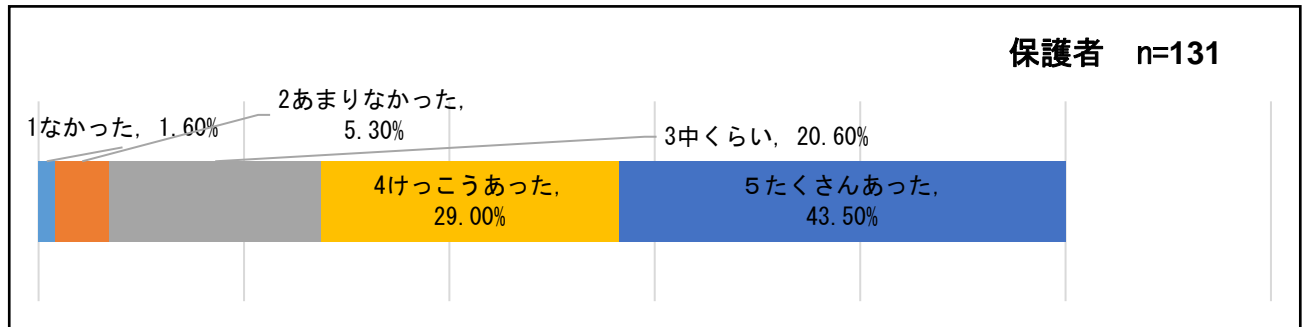
(保護者の自由記述)

- ◆普段、外ではくっついて離れない娘がジャンプしてみていた。楽しかった。
- ◇45分という時間だったが、あっという間に感じる位楽しい時間だった。
- ◆自由にしても大丈夫とのことだったので、大人も子どもも安心して最初から最後まで楽しめた。
- ◇最後の方は飽きて走り回っていたが、行ってよかった。
- ◆4か月の子が直前までおっぱいを欲しがっていたが、膝の上でぐずることなくジーっとよく見ているのがビックリした。
- ◇動きまわる子どもを追いかけないといけないのが緊張した。

分析と課題

保護者、施設職員共同じような結果となった。加齢と共に参加する割合が増加したと言えるが、0歳の赤ちゃんから目を追う、音に反応して顔を向ける、ニコっとする等、参加していることに驚きびっくりしたという声。保護者のアンケートで「参加できなかった・あまり参加できなかった」が20%あり、諸々要因があるが、その要因を克服することは次年度に向けての課題である。

Q 家に帰ってやってみようと思うことはありましたか



(保護者自由記述)

- ◆音楽をかけたり、もらったおもちゃで遊んだり、楽しかったのでお家あそびの参考にしたい。
- ◇身近な道具だし、雨の日にもできる。たくさんまねしたい。
- ◆たくさん笑顔が見られた。家でも踊りたい。
- ◇うたがこちよいか、子どもが寝てしまった。家でも歌ってあげたい。
- ◆わが子の年齢にあわなかった。少しむずかしかった。

(施設職員記述)

- ◆わらべうたを子どもたちとやっていきたい。
- ◇身近な材料で作品が作れることが分かり、つくってみたい。職員も楽しく参加できた。

分析と課題

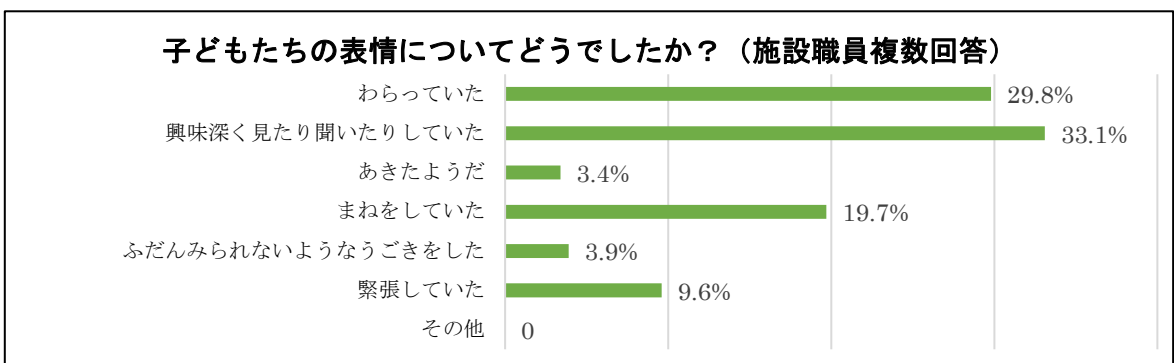
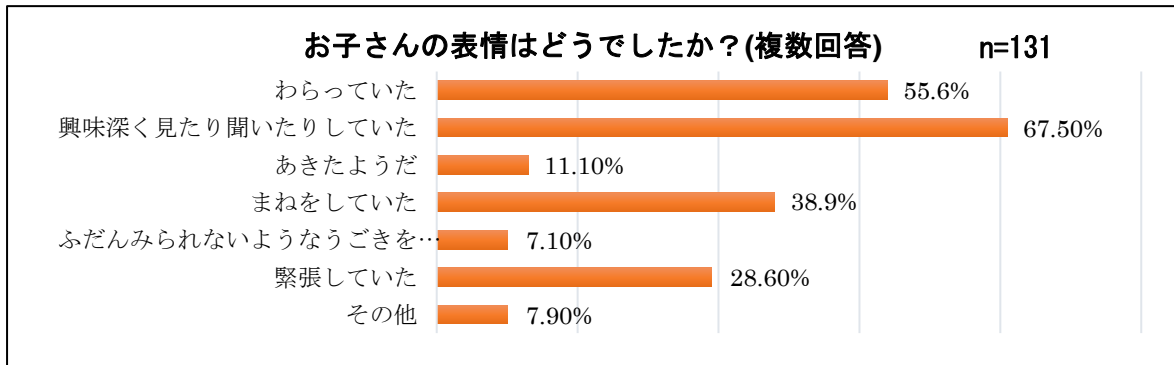
保護者の参加者のほぼ全員(93.1%)は、何かしら遊びを家庭に持ち帰りやってみようと思った。これはパフォーマーが前事業からの継続者であり、前事業をふまえて、家庭に継続する重要性を意識してプログラム構成を行ったことがうかがわれる。

コロナ禍、どのような子育て支援が必要であるか、パフォーマーと主催者とが連携し、共に作り上げる姿勢があるからこそ、このような質の高いワークショップが実現できたと推察する。

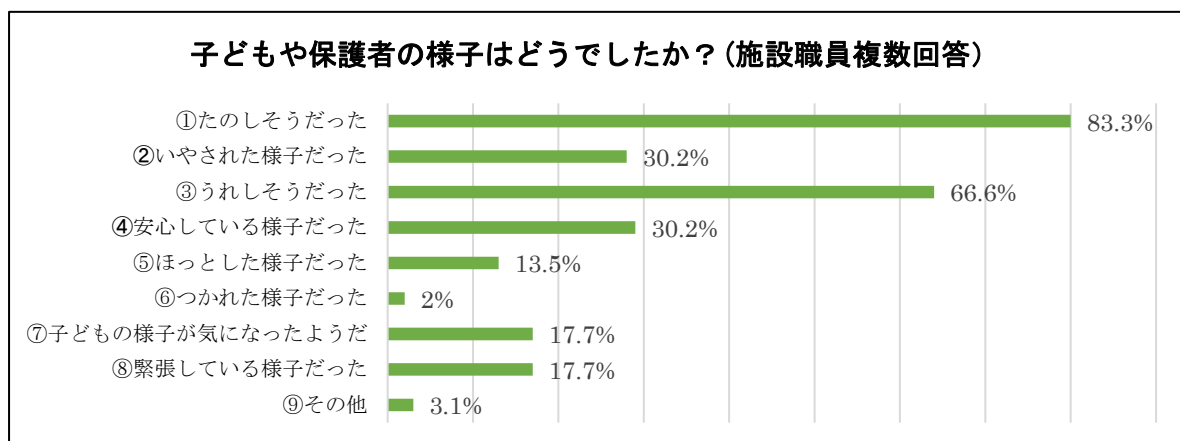
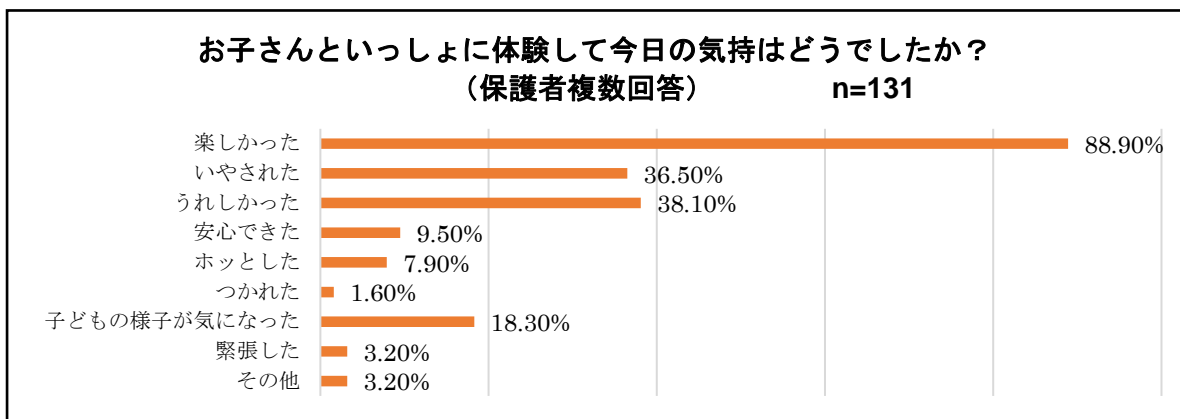
本事業も目的の一つである「あそびのスキルを身につけて家庭での生活に活かし、笑顔で毎日を過ごす一助になる。」が果たされたともいえよう。

成果目標② いっしょにあそびながら、乳幼児の行動や著しい成長発達を知ったり感じたりすることが、親としての喜びになり、子育てを前向きに楽しめるようになる。

Q お子さんの表情はどうでしたか？



Q お子さんと一緒に参加して今日の気持ちはどうでしたか？



Q6 時間はどうでしたか？

(保護者) ①ちょうどよかった 111人 (85%) ②もっと短くてもよかった 2人 (1.5%)
③もっと長くてもよかった 18人 (13.5%)

(施設職員・行政職員) ①ちょうどよかった 61人 (90%) ②もっと短くてもよかった 5人 (7%)
③もっと 長くてもよかった 2人 (3%)

Q4 お子さんの表情はどうでしたか？ (保護者自由記述)

Q5 一緒に体験して今日の気持はどうでしたか？ (保護者自由記述)

- ◆子どもがノリノリで体を動かしても楽しかった。
- ◇子どものペースで自由に表現できていた。
- ◆苦手そうな表現タイムでマネしていて、子どもの新しいようすが見られた。
- ◇楽器にふれて、子どもの目が輝いていた。
- ◆おちつきのない子を心配したが、思った以上に見られて、親の私がとても楽しかった。
- ◇走り回る子を止めるのに気持ちが向き、よくみることができなかった。

Q その他 施設職員・行政職員のアンケート自由記述 コーディネーターの当日記録

①芸術の力とパフォーマーの力

- ◆子どもを飽きさせないテンポのよいプログラムで、もりあがった。
- ◇子どもたちが見入っており、お母さんはいやされたようです。生の文化芸術のもつすごさを改めて実感。
- ◆0～2才向けのワークにパフォーマーは全精力で向き合っている。子どもを見ながらプログラムも変えられる。
- ◇「やりたくなったらやってね」とパフォーマーは親子を温かく迎え入れ、自然な、親子のつながりづくりの場になっている。

②赤ちゃんや保護者のようすや教えてくれたこと

- ◆まだ言葉で表現しない赤ちゃんが、じっと見たり、お母さんにニコッとしたり、「全身が目と耳」というくらい集中していた。
- ◇緊張して親から離れられない子が、周りを見て徐々に動き始めた。40分間に動きがどんどん変わっていった。
- ◆子どもたちがホールを思いっきり動き回る姿に、小さな子たちにダンスや表現あそびは必要だと感じた。
- ◇色々なことに興味シンシンの男の子は、外に出て帰ってこなかった。パフォーマーは「すてきな好奇心の持ち主と伝えてください」と施設スタッフに言った。地元ならではの、これからもフォローができる良さを感じた。

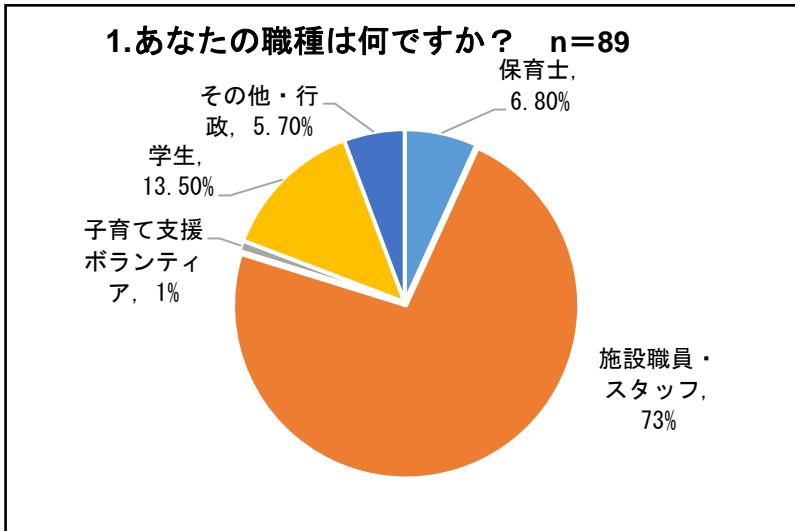
分析と課題

子どもの表情について、「緊張した」(28.6%)や「飽きた」(11.1%)子どもも見受けられたが、それにも増して保護者の子どもといっしょに体験した気持は「楽しかった」が約9割(88.9%)であった。保護者自身も「嬉しく」(38.1%)もあり、「癒され」(36.0%)、「安心でき」(9.5%)、「ほっとした」(7.9%)ひと時でもあった。この様に、本事業が保護者支援にも繋がり、目標の一つである『笑顔で毎日を過ごす一助』となったことがうかがわれる。

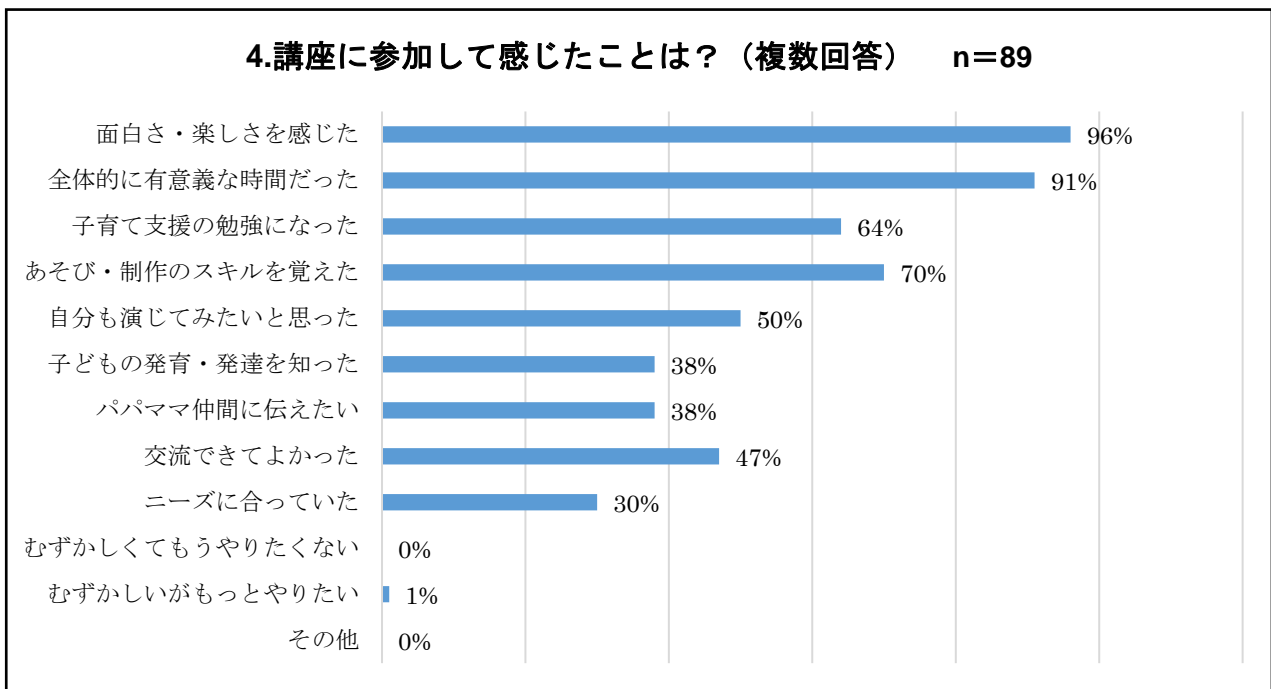
また、「子どもの新しい様子が見られた」「子どもの目が輝いていた」「興味深く見たり聞いたりしていた」「真似をしていた」など保護者は、様々な我が子の姿を認めていた。同年齢、異年齢の子どもが集い遊ぶ機会を通し、保護者は、我が子や我が子以外の子どもの姿を知る中で、『乳幼児の行動や著しい成長発達を知ったり感じたりすること』ができたことと推察する。コロナ禍、子ども同士、保護者同士の関わりが希薄化した現代、本事業は意義深いものであると言えよう。

成果目標③ 親子を支援する施設の保育士や支援スタッフを対象に、芸術家の指導による支援力向上の講座で、親子へのかかわり方やあそびの専門性を高める。

支援力向上講座参加者アンケートの 選択肢によるデータ 89 人



施設職員・スタッフ 65 人
 学生 12 人
 保育士 6 人
 行政・その他 5 人
 子育て支援ボランティア 1 人



Q4 講座に参加して感じたことは？（自由記述）

- ◆心がポカポカ、身体もポカポカ。やらされている感じがなく、やりたい気持ちがかんたんわいてきた。
- ◇私も前に立つ時には子どもたちが安心してころを表現できる雰囲気をつくっていききたい。
- ◆「赤ちゃんは目が大好き」とのお話が印象的。マスクをしていると伝わらないかな？と心配するが、雰囲気や声から伝わるように関わっていききたい。
- ◇研修の機会が減っていたので、これから職員同士で実施してチームワークを深めたい。
- ◆現場で働くみなさんの「学びたい」要求に応えていただける有意義な研修だと思う。

Q5. 時間はどうでしたか？

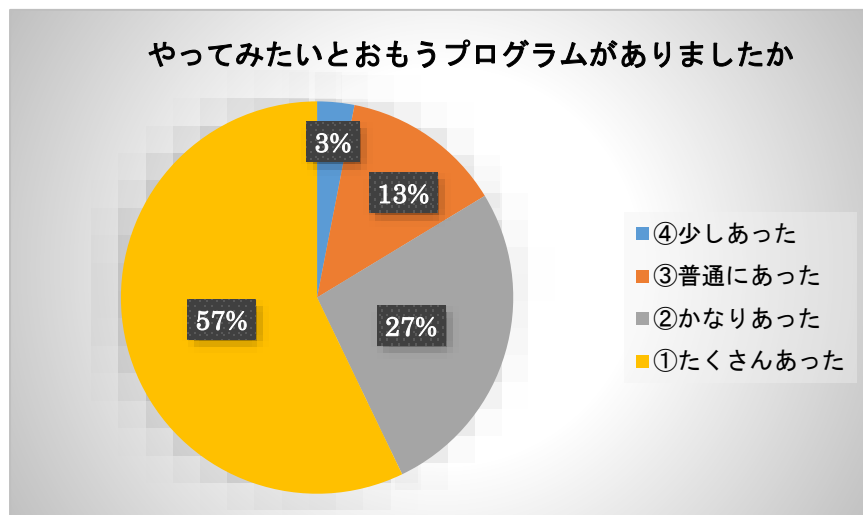
①短かった 19人 (27%) ②ちょうどよい 69人 (78%) ③長かった 0人 (0%)

Q6. このような講座は初めてですか？

初めて 60人 (68.2%) 2回目 11人 (12.5%) 3回目 5人 (5.7%)
4回目以上 12人 (13.6%)

Q7. このような講座にまた参加したいですか？ 参加したい 100%

Q8 今回のプログラムでやってみたいと思うものはありましたか？



①たくさんあった	56人
②かなりあった	26人
③普通にあった	13人
④少しあった	3人
⑤なかった	0人

Q8 今回のプログラムでやってみたいと思うものはありましたか？ (自由記述)

◆わらべうたの魅力を感じていたものの、自信がもてなかった。講座でわらべうたが身近で奥深いことがわかったので、とりいれていきたい。

◇テレビや携帯に触れることが多い時だからこそ、大好きな大人が心を寄せて歌う歌を子どもたちの心に届けたい。

◆工作を家に持ち帰ってもう一度つくって施設でやってみたい。

◇言葉だけでなく手、耳、口、目と伝える方法はいっぱいあるんだと感じた。

◆先生の、大人をほぐしていくテクニックがすばらしかった 楽しみながらやっていきたい。

分析と課題

講座に参加して感じたこととして、全体の 90%以上が「面白さ楽しさを感じた」や「全体的に有意義な時間だった」とし、また、70%が「遊び・製作のスキルを覚えた」と回答していたことから、講座に参加することで、保育の実践的な技術や理論など、子育て支援に関する多くの学びが得られたことが示唆された。これは、地域全体の子育て支援の質の向上にもつながることであり、本事業の「親子へのかかわり方やあそびの専門性を高める。」の目標にも繋がる。

成果目標④ 乳幼児期からのアプローチが大切なことを、市町村行政の理解と賛同を得て、連携して取り組む。

行政の理解と賛同を得て連携するための取り組み

◆4月より54市町村の担当者に、昨年の報告書と令和3年度の企画書とエントリーシートを送り、訪問し、昨年の具体的な様子や成果を報告。自分の町で子育て支援の一つとして実施できるかどうかの打診や相談を繰り返した。

◇7月末までに、13の市からエントリーを受けた。会場下見打ち合わせに伺い、ニーズ把握・プログラム内容・コロナ対策・親子が安心できる環境づくりなどについて、丁寧に打ち合わせ、当事者の親子にこの情報が届くよう、施設職員や行政職員と一緒に考えながら準備した。

◆特にコロナ禍で、ガイドラインを守り実施した行政及び施設の決断には、日常来所している親子への切れ目のない支援と、プロによる芸術的なプログラムとの出会いの場づくりへの思いが強かった。

●連携のポイント1

0～2歳の乳幼児期の親子へアプローチする

①生まれながらに人と繋がり、育とうとする赤ちゃんの力を周囲の大人が認識し、非認知能力の土台となる愛着形成のために最も重要な0歳～2歳を対象を絞ることをこの事業のポイントとし、行政に伝えた。

②行政の職員が「コロナの中行き場のないお母さん方に来てもらえるように」「マスクを超えるコミュニケーションを赤ちゃんに」との思いで連携の意義をくみ取り、担当者が主体性をもって参加する箇所が増えた。

③「初めて見て、あんなに小さい子が入り込む、赤ちゃんがあんなにじっと見る、じっと聞くなんて、驚いた。引きつける力すごいと思った。こういう事業を自治体で実施できたらな、と改めて感じた」等の感想が多数あった。

●連携のポイント2

市町村行政の理解と賛同を得る

①ワークショップへの行政職員の参加8市16名と増えた。(昨年は6市7名)

②施設側も参加者も安心して、地域の中で実施するために、行政の担当者が主体性をもって参加する箇所が増え、直接見て感じて実感することができ、驚くほどの効果を目のあたりにした。

③支援者養成講座は行政とも連携しやすく、行政により管轄内の支援者への広報周知、会場確保、当日参加、当日運営等でNPOとの対等な連携が6市中、4市で進んだ。

④職員の異動に伴い、これまで積み重ねたことがゼロになり、行政内での共有化が図られていないことで振り出しに戻った例があった。

■分析者(敬称略)

大学教員：仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子
植草学園短期大学准教授 久留島太郎

保育士：白鳥みゆき

(特)子ども劇場千葉県センター：岡田泰子

●連携のポイント3

連携した取り組みを拡げ深める

①実施当日参加した行政職員からはアンケートやヒアリングで、参加できなかった行政へは担当課を直接訪問してフォローアップをし、今後の事業継続や施策化への可能性について、一歩前にすすむよう意見交換をした。

②行政との連携をより深めるため、発信する言葉を持ち、信頼関係が深まるよう報告、連絡、相談等を丁寧にし、つないできた。

③行政や施設と連携してよかったことは、
◆子育て支援課が市の広報紙で募集し、3日間で定員が埋まった。当日は、初めてこの会場に来た人、里帰り出産の人など、広く情報が届いていたことがわかった。

◇子育て支援課の係長、課長が参加し、子どもたちを見て「目から鱗がおちた！」様子で、乳幼児にとってこのような機会が大切なことが伝わり、今年は1歩進んだ。

◆2年続けて3人が参加した行政は「今日のようなワークショップを次も希望する」と全員が回答した。
◇施設スタッフは親子をサポートしつつ一緒に楽しみ、安心できる雰囲気をつくっていた。

事業名：「0歳～2歳の親が笑顔になるワークと施設スタッフの支援力向上」事業



乳幼児期へのわが町の子育て支援を 市民の願いと共に！

赤ちゃんが教えてくれる し・え・ん とは

開催日時：2022年2月28日(月) 14:30～16:30 千葉市民会館特別室2&ZOOM

参加者：90人 主催：(特)子ども劇場千葉県センター

■発表者：14名（敬称略）

☆ワーク当日の子ども・保護者等のアドボカシー

子ども劇場千葉県センター 中村雪江

☆実施施設長 保育士

臼井老幼の館 インストラクター 伊藤芳枝

成田市三里塚なかよしひろば施設長 伊藤京美

☆ワーク参加の保護者2人と講座参加の受講生2人

長谷部明奈 内藤友加 鳥海樹里 穴戸美栄子

☆パフォーマー

人形劇団ののはな 納富俊郎

劇団風の子 大森靖枝

☆行政から3人

佐倉市子ども政策課 課長 上野裕子

成田市子育て支援課 副主査 在田義隆

市川市子ども家庭支援課 副主幹 横溝ひとみ

☆推進プロジェクト

仙台白百合女子大学特任教授 佐野裕子

子ども劇場千葉県センター滝口淳子

子ども劇場千葉県センター 中村雪江さん

①赤ちゃんは全身が目と耳で、日常とは違う雰囲気や知らない人がいるとお母さんしみがつき泣き出す赤ちゃんもいます。その時、あっという間に泣き止む「魔法のおくすり」が出てきます。パフォーマーによって処方箋もいろいろです。

②保育園でのワークで、4人の1歳児が開演15分で一斉に爆睡。やさしい歌声で気持ちが良くなって10分くらい寝てすっきりした様子で起き、すぐに楽器に触れてあそんでいました。ベイビーシアターならではの、ほほえましい光景に出会えました。

③たのしかった90% うれしかった36% 癒された38%。赤ちゃんはじーっとよく観ます。お母さんのお膝にすわり、お母さんを見上げてにこっと笑う、お母さんもそれに応えてやさしい笑顔返す。我が子がかわいいと思う瞬間、幸せ感がふりまかれています。こんな時、芸術が子育て支援になると実感します。

④ワークは、パフォーマーとのコミュニケーションの場でもあります。赤ちゃんやお母さんたちを丸ごと受け入れ、パフォーマーのほめ言葉や声かけが優しく、温かい会場の雰囲気を醸し出しています。お母さんがだいじにされたと感じ癒されています。

成田市三里塚なかよしひろば施設長 伊藤京美さん

プロってすごい！ 本当に魔法のよう。歌声も楽器も心地よくて、一瞬で引き込まれました。子どもは食入のように「ポカン」と口を開けてみていて、親は子どもの顔を横から覗き込んで、それは幸せそうでした。親もすてきだね～たのしいね～と、生の美しい声を体で体験しました。心が動くことは大事だと思いました。歌子さんの「えがお」という歌、♪君の笑顔が幸せのはかりかた♪で、子育てしていた自分のことを思い出し涙が止まらなくなりました。自分の子育ては後悔があり、その時の自分に寄り添ってもらったような気持ちになりました。

今子育てしている人に笑顔で子育てを・・・と言うと、難しいと思う人が多いと思いますが、歌を通して聴くと素直に伝わってくる。プロの魔法の力です。みんなで絆を深め、子育ての喜びを確認できました。子どもの生きる力になると思います。私たち支援スタッフも、支援の仕事をしていることに感動しました。コロナ禍であっても、家庭の不安軽減のためにもできることをやっていきたい。この事業ができたことに感謝し、続けて継続して拡大してほしいです。



成田市三里塚なかよしひろば 歌子さんのワーク参加 保護者 長谷部明奈さんからのお手紙

コロナ禍、このような催しをありがとうございました。私は初産で、妊娠から出産までコロナ禍で不安でいっぱいでした。産後も孤立しがちで、イベントも中止、出かけることもできず、そんな中児童館に行くようになり、そこで「歌子さんのはじめてのコンサート」を紹介されました。

当日、子どもと一緒に触れ合っコミュニケーションが取れ、子どもの表情をみてうれしくなりました。歌子さんが「がんばりすぎないでいいんだよ～」とやさしく語りかけてくれたように感じ心が軽くなりました。

10か月の我が子は目を開き集中してみて、全身で音を楽しんでいました。音楽は早いかと思っていた私の意識が変わりました。市民として、行政へお願いがあります。有料だと親が焦ってしまっ心から楽しめないのも無料だと嬉しいです。こんなイベントをもっと定期的に開いてくださることを望んでいます。

臼井老の館インストラクター 伊藤芳枝さん

昨年と今年、2年間続けて実施できました。施設ではコロナ禍でイベントのすべてが中止していましたので、お母さんたちは大喜びでした。安西さんの0歳の子どもが受けるダンスあそびってどういうもの？と、興味がありました。声かけや引き出し方がすばらしく、まねっこあそび、リズムあそび、音楽にのって踊る等々、次々と動きが飛び出していくのが印象的でした。まねっこする子どもたちがすごくかわいらしくて、周りの大人も思わず微笑んでいました。ママの膝にいた子も、立ち上がって動きとても楽しそうでした。一つ一つのうごきを曲に合わせて踊ったらダンスになっていたのです。さすがプロは違う！



臼井老の館 ワークに参加した保護者 内藤友加さん

2歳の娘とこの施設を利用しています。とてもいいイベントでした。体を動かすことが少なくなっていたので、いい刺激になりました。コロナ禍でイベントがなくなって、他の施設も閉鎖され、行く場所がなくなっていました。このような機会を続けてほしいです。昨年の歌子さんのワークでも、子育てに切羽詰まっていて、リラックスできて心がやさしくなりました。親子でいい時間を過ごしました。

大沢 愛さんの講座に参加した

認定こども園さつき幼稚園 保育士 鳥海樹里さん

家庭的な雰囲気親子の愛着形成を育む活動として3年前から、1対1のわらべうたを始めました。繰り返すほど楽しさが伝わり、子どもも口ずさめるようになり、生き生きと遊ぶ姿が見えてきています。わらべうたのいいところは、道具がなくてもどこでも楽しめ、大好きな家族と表現して楽しむことができます。赤ちゃんへも歌っていきたいと思い週1回ではじめました。研修会で赤ちゃんは月齢で分けた方が良いと大沢さんからアドバイスを受け、年齢別に分けて実施しています。今では10組の親子が参加しています。年齢別になって大切にしていることは、1歳児では親が楽しかったと思えるように、2歳児では親子で楽しかったと思えるように、2歳児以上は子どもが楽しいと思えるようにと、年齢でねらいを決めています。わらべうたは一番身近にある親子で会楽しめる簡単なツールです。現代の親子が少しでもわらべうたをうたってもらえるとうれしいです。わらべうたは学ばば学ばほど奥深いです。このような講座に参加して刺激を受け、人として成長するわらべうたを続けていきたいと思えます。

パフォーマー 人形劇団ののはな 納富俊郎さん

世阿弥は「住するところなきをまず花とするべし」と芸の基本は変化し続け満足してはいけないと言い、マザーテレサは「今、幸せであることを満足することが大事」と、満足することが大事と言う。相反するようですが、大人も小さな子もこの両方を持っています。小さい子はおっぱいを飲み抱いてもらうことで満足します。アフリカでは1人の子を育てるには村中の人が必要ということわざがあります。みんなで子どもを育て、子どもはみんなの中で育つのです。子育て支援という、やってあげよう やってもらおうになりがちですが、子どもは自ら育つ力がある「子育て」であり、「子育て・親育ち」を応援するのが支援です。佐々木正美さんは、「子どもを愛してくださいね」と訴えていた方です。子どもの幸せは、家庭の中にあります。非認知能力は、主体的に育つ中で育ちます。子どもも大人も同じです。私たちパフォーマーには、心を込めて思いを伝え、喜びになり幸せを感じるような、そうしたプログラムが求められると思います。これから若い世代にも講座を拡げたいですね。手を取り合って一緒にやっていきましょう。



大森靖枝さんの講座に参加した

佐倉老幼の館インストラクター 宍戸美栄子さん

児童館では研修会の機会が減り、久しぶりに楽しみに参加しました。研修会のイメージは正しいことを答えなくてははいけないというプレッシャーがあり、最初緊張していました。始めてみると楽しい雰囲気が会場を包み込み、子どものような気持ちになって、お隣さんとも気持ちがほぐれワクワクして2時間、あっという間でした。大森さんが最初に「自分になってほしいと思う人になる。子どもはそれを見ている」という話に、そうだ！と思いました。楽しいスキルもいっぱい、職場に持ち帰り早速実践しました。2歳児には楽しく遊ぶことを第一に、親子で自由に、新聞紙のドレス、おにぎり、ボールなど1時間くらい遊びました。満足感で心が刺激されたよう。おおちゃんのおにぎりの手遊びは親子に大人気で、私たちスタッフの心を刺激してもらい、モチベーションが上がりました。児童館に来てよかったと親子に思ってもらえるようにがんばります。

パフォーマー 劇団風の子 大森靖枝さん(おおちゃん)

子どもやお母さんたちとのかかわりを大事にできました。いつもいつもハプニングだらけで、予定どおりにはいかないのです。先日のねむの里でのワークで、ええ！？ こうなっちゃうの?! ウソ～!?!という場面に遭遇。こうなっちゃったか と受け止めるとだいたいうまくいく。ウッドブロックを保育士さんをお願いしてたたいてもらったのですが、赤ちゃんに抱っこをせがまれ、もっていたウッドブロックを、3歳の子に渡したんですね。とても上手にたたいたのですよ。ワークは進行していたのですが、1歳の子が3歳の子にガンつけているの、言葉はない。私流に解説すると「僕にもやらせてよ。何でお前なの?」ということでしょうか。3歳の子に交渉しているのです。

そうしたら1歳の子が、私に「はい」と渡しに来たのです。保育士さんが「今度はおおちゃんが使うんだよ」と言ってくれたのだと思います。「赤ちゃんが教えてくれる」その通りです、子どもには交渉する力があることを発見しました。子どもが教えてくれたことでした。

佐倉市子ども政策課 課長 上野裕子さん

ワーク・講座とも参加し、職員と2人で素敵な体験をしました。講座とか研修会という、正解を言わなくてはと身構えるのですが、今回のおおちゃんの講座は自分が感じたことすべてが正解で、本当に楽しい講座でした。この事業の価値は、コロナ禍、これからのアフターコロナで、こうしたワークへの要求が高まり、一番必要なことだと思えます。大人にとっても受け止めてもらえた感があり、癒される中で体験できる場や、子どもと遊んで楽しいことがたくさん必要です。行政として来年度も、希望されるところとマッチングで実施したいと思えます。

(特) 子ども劇場千葉県センター 滝口淳子さん

0歳～2歳児を対象にした意味や、芸術を活用した子育て支援の効果を実感する場への参加を働きかけ、昨年よりも多くの行政が参加しました。特に支援力向上講座は、行政が会場確保や参加募集など主体的にかかわり、連携に近い一歩を踏み出すことができました。施設では研修へのニーズが高く、パフォーマーの作品を通して思いやメッセージの力に触れました。講座後はモチベーションが高まり、保育の現場でわらべうたや遊びを取り入れています。握った手は離さないように事業をすすめ、私たちNPOや市民の願いが施策に反映できるよう、市民のネットワークを強化しながら取り組んでいきます。

収録したビデオで参加 成田市子育て支援課 副主査 在田義隆さん

三里塚なかよし広場で「歌子さんのはじめてのコンサート」を、もりんびあこうづで大森靖枝さんの講座を実施することができました。コロナ禍でも安心して利用いただけるよう、感染対策を徹底し、利用制限をして閉じることなくひろばを開設してきました。親子の参加型で子どもたちをひきつけ、双方向型で和気あいあいと楽しそうに参加していました。私も2歳の娘がいますが参加させたかったと思いました。家族 親族とも会えず、こうした繋がるきっかけが大事と感じています。プロのパフォーマーの子どもや親への関わり方も、現場スタッフとして学ぶことが多く、今後共ぜひ連携させて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。

市川市子ども家庭支援課 副主幹 横溝ひとみさん

大森靖枝さんのワークと講座を実施できました。コロナ禍でも子どもの成長は待ってくれない、今こそやらないきゃという思いと、コーディネーターの方から「マスクを超えるコミュニケーションができる」と言われたことも力強かったです。

ワークでは未だほふく前進できない赤ちゃんが、うつぶせになって首を持ち上げ、釘付けになっている姿を見ました。全身で見たい気持ちを表現していました。ママたちの優しい幸せいっぱい笑顔で、素敵な連鎖が起きていました。大森さんの心をつかむ表現力はすごい!です。親子の絆を深めるためにハグハグさせてにこにこ笑顔にさせ、子どもが寄っていく、まほう使いだ!と思いました。

講座では、童心に戻り講座に夢中になりました。「自分自身が心から楽しむこと」を学び、気づくと笑顔であふれていました。コロナ禍であえて対面にこだわったことにも意味があり、会って言葉を交わすことの嬉しさでいっぱいになりました。プロの芸術家の力を借りて、もっと多くの家庭・行政職員にも効率的に支援結果が出せる、この体験をしてほしいと感じました。



①0歳～2歳児を持つ親が、あそびのスキルを身につけて、日常生活に活かし、笑顔で毎日を過ごす一助になる。

★参加者の93.9%は2歳までの低年齢児。コロナ禍で家に閉じこもりがちな親子にとって活動欲求を満たしてくれ「自由、大丈夫、安心 楽しむ 走り回る 笑顔」等の語句が多数確認でき、親子でワークに参加することで笑顔になる時を過ごせた。「親も子も笑顔になる」の目標は十分達成されたと言える。

★参加者のほぼ全員(93.1%)が持ち帰ってやってみたいと回答。「遊びのスキルを身につけて日常生活に活かす」が果たされた。

②乳幼児の行動や著しい成長発達を知って感じて、親としての喜びになり子育てを前向きに楽しめるようになる。

★子どもの表情について「緊張した、あきた」という子もいたが、それにも増して「楽しかったが88.9%」「嬉しくもあり38.1%、癒された36%」「安心でき9.5% ほっとした7.9%」と、この事業が保護者支援にもつながったことが窺われる。また、「子どもの目が輝いていた 興味深く見たり聞いたりしていた 真似をしていた」など、保護者が我が子やわが子以外の子どもの姿を知ることができた。コロナ禍で子ども同士、親同士の関わり希薄化した現代、意義深い事業である。

③施設支援スタッフを対象に、芸術家の指導による支援力向上講座で、親子への関わり方や遊びの専門性を高める。

★支援力向上の講座に参加した受講生の90%が「おもしろさや楽しさを感じた」70%が「あそびや製作のスキルを覚えた」と回答。保育の実践的な技術や理論など、多くの学びが得られた。地域全体の子育て支援の質の向上の目標に繋がった。

④乳幼児期からのアプローチが大切なことを、市町村行政の理解と賛同を得て、連携して取り組む。

★非認知能力の土台となる0歳～2歳を対象を絞ることを行政訪問を通じて伝え、理念への賛同を得て、連携の意義をくみ取り、主体性をもって参加する個所が増えた。子どもの姿を見たすべての職員が「目から鱗」と実感し、連携が更にすすんだ。

令和3年度 提言

コロナ禍、地域の子育て支援施設への来館の制限や活動の延期が続き、子育ての支援が途絶えている。特に家庭で子育てを行っている低年齢児をもつ親の孤立感や緊張感、不安感は増大しており、自粛生活が続く中、親の子育て不安の解消と共に、子どもの健やかな発達のための「遊びの機会の保障」が求められる。

このような社会情勢をふまえ、行政と連携し様々な遊びの提案を行い、掲げた4つの目標の成果を得ることの意義は大きい。

今、求められている地域の子育て支援のあり方として、本事業を広め、継続することは重要である。そのためには行政とのさらなる連携が重要であり、自治体の地域子育て支援施策の一つとして推進していただくことを願いたい。

成果報告会アンケート

赤ちゃんが持つ本能のちから、忘れかけていた気持ちに気づくことができた/ プロの力は、乳幼児の親子・支援する側・すべての人に大きな影響を与えることはまちがいないと新鮮な気持ちをもった/ 子どもはママが楽しそう、ママが笑っている！という姿を見て幸せを感じられるということを改めて強く感じた/ 今年は行政の担当者の方の参加もあり、継続することの素晴らしさを感じている/ 「子どもたちにはこの時期にしかない育ちがある」って本当にそうですね。コロナの感染を心配して活動を自粛してしまっただけでいいけないと反省/ 地域の皆で子どもを愛して育てていくためには、小さな力が合わせて支援をすることだと身に染み込んだ/ 行政とのつながりを作ってください感謝/ みなさんからは使命感が伝わってきた。共通して「喜び」「感動」「笑顔」「癒し」などのワードが聴いていて涙が出た。行政の理解のもと、子どもの大切な時間と心から楽しむ機会を、今後も提供してほしい/ 0. 1. 2歳を持つ親の子育てには多方面からの支援が必要と実感している/ コロナ禍、虐待につなげない活動のひとつだと思ふ/ ぜひ今後とも事業をご継続し、是非当市での開催をお願いできればと思います

実施施設：白井市西白井複合センター

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：白井市西白井複合センター

実施日時： 2021年 9月 24日（金）10:30 ～ 11:15

参加者数：総数 27人

乳幼児 12人（1歳：5人 2歳：6人 3才：1人）

大人 15人（保護者：12人 保育士：2人 施設関係者：1人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（安西真幸）

コーディネーター2人（岡田泰子 中村雪江）

スタッフ3人（森内由紀 中村智子 菅谷文子）

プログラム内容

- ①たくさんのからだほぐしあそび（四つんばいでハイハイ カエルとび 手あげピョンピョン 手で足をつかみピョン ゴロンとねころぶ 両手でパクパク グーでパクパク）
- ② 音楽に合わせたリズムあそび（からだほぐしのフリをとりいれてリズムに合わせて体を動かす）
- ③「ビュービューゴーゴー！」と風の音が流れるなか、4～5mある白い布の両端を講師とスタッフを持ち、掲げてパタパタ上下させて空気を動かしながら会場いっぱいゆっくり走る。すべての親子の上を通過させる。
- ④久石譲さん作曲のジブリ「さんぽ♪」に合わせてみんなでぐるぐる歩きまわる。
- ⑤いくつかの全身をつかったフリをみんなで作ってみる
- ⑥「パプリカ」に合わせてフリをつけて踊りながら、歌いながら歩く

当日の様子

- ・次々と参加親子が到着。広いフローを、おむつ姿の幼児たちが走り回り、ママたちがほほえましそうに見ている姿は、とても解放されたうれしそうな様子だった。
- ・始まるとちょっと神妙な雰囲気になり、ママのヒザに乗り、首にしがみつき、それでも気になるのか顔だけ講師の方をじっと見る子、ママから離れて真ん中に行く子、それぞれだった。
- ・幼児が好きそうな擬音語、擬態語を存分につかってフリをして見せると、張り切って全身でマネする子、ママに手を添えてもらって上半身だけマネする子・・・と十人十色に表現していた。
- ・知っている音楽が好き、それに練習したフリをつけるともっと楽しい。風をからだ中で感じるの小さな子はどんな気持ちなのだろう？と想像した。最後に誰もが知っている「パプリカ」歌って踊るとお祭りのようだ。フリは揃っていないし、子どもたちは好きなところだけマネしていた。

保護者からの声

子どもの表情⇒①わらっていた2人②興味深く見たり聞いたりしていた4人 ③あきたようだ1人
⑥緊張していた1人 保護者の気持ち⇒1人 ①たのしかった4人 ②いやされた1人 ③うれしかった人3
・ヒザの上にいることが多かったが、途中からは楽しく体を動かすことができました。とても楽しかったです。・たくさんまねっこして楽しそうでした。・とても楽しくできました。

施設関係者・行政からの声

・コロナ禍でも、子育て支援の施設として、気をつけながらもできるだけ閉じないでやれることをやろうとは思っているが、本日は久しぶりの活動ができて嬉しい。自分たちも参加させていただきます。

コーディネーター（岡田泰子 中村雪江）

実施施設：乳児院 イーハトープ

プログラム名：「わらべうたあそび うたとおはなしのじかん」



実施場所：乳児院イーハトープ

実施日時： 2021年 10月 6日（水） 10：00～10：15 10：20～11：00

参加者数：総数 22人

乳幼児 14人（0歳児：5人 1歳児：3人 2歳児：3人 3歳児：3人）

大人 8人（施設保育士：8人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（大沢 愛）

コーディネーター2人（鈴木佳子 椎名好子）

プログラム内容

ちっち にぎにぎ ちょちょち あわわ ギッコンボタン 手つてのねずみ しおぶりこぶり とんぼ さよならあんころもち かごかご十六文 はなちゃんりんごが まるくなれ

当日の様子

0歳～1歳

ちっち、にぎにぎでは、だんだん保育士さんのお膝の中で笑顔になる子、保育士さんの指先をじーっと見あげている。愛さんの手拍子に合わせて足をバタバタしている。最初は緊張しているようだったが、だんだん表情がほぐれ「にぎにぎにぎ」では、保育士さんと向かい合ってニコッとした笑顔になった。6カ月の子、「つくつくく」と保育士さんのものの上ではね、2歳の子（ダウン症ずりばい）周りのみんなの動きを見ながら動いていく。「てつてのねずみ」では、くすぐりでケラケラと声を出して大笑い。とんぼが目に来ると興味を示し、じーっと見ていた。

1歳～3歳

ちっち、愛さんの指の動きをよく見ている。手つてのねずみでは、自分の指を腕の上へ動かしてる。ちょちょちに声を上げて笑った。「ぎったんぱっこん」では、ずっと笑わなかった子が嬉しそうな顔で声をあげた。「はなちゃんりんご食べたいな」では、年下の子のはなに指を添えてマネをする。「とんぼとんぼ」とんぼが自分のところに来ると微笑んだ。

最後のかねの音には敏感に反応し、何だろうと興味津々という顔をし、愛さんのかねを触りに行った。「さよならあんころもちまたきなこ」上手にあんころもちを作っていた「おいしいね！」と。

施設関係者からの声

- ・とても楽しい時間を過ごせました。子どもと1対1でたくさん触れ合えて楽しかったです
- ・子どももいつもと違う体験ができて良かったです。笑っている子、緊張している子、あまり興味を示さない子など、様々な子どもの姿がみられてとても良かったです。
- ・自分もわらべうたを子どもたちと一緒にやっていきたいです。できれば私自身が一緒に訪問して伝承をしていきたいです。
- ・8人全員からまた実施したいとの希望があった。

（コーディネーター：鈴木佳子 椎名好子）

実施施設：認定こども園四街道さつき幼稚園
プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：認定こども園四街道さつき幼稚園親子の遊び場りんごルーム

実施日時： 2021年 10月 12日（火） 11：00～11：40

参加者数：総数 22人

乳幼児 10人（0歳：3人 1歳：2人 2歳：5人）

大人 12人（保護者：7人 保育士：4人 施設関係者：1人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（安西真幸）

コーディネーター2人（椎名好子 棚田純子）

プログラム内容

- ・輪になって歩く（ミッキーマウスマーチ） 名前を呼ばれて手をあげてはいー！
- ・＜真似をしながら＞手と指で、ミッキーの耳のようにゆらゆら、手拍子、指でパクパク、パーでパクパク 大きな口でガブガブ、グーでパクパク、水の中を泳ぐ
- ・＜耳をすませて＞ 鳴き声「にゃんにゃん」・キュッキュッキュッキュ・ブクブク、チャプチャプ ビョーンビョーン・白い大きな布を使って、風が吹いてくるから逃げよう・おかあさんとジャンプ
- ・さんぽの曲に合わせてみんなで歩きながら「いろんなことがおきるよ！」、キュッキュ、びよ～ん、風がふいてきた、強い風、布をもって走り回る
- ・ママたちのダンス BTSの曲から 最後は全員で「パプリカ」でダンス

当日の様子

まーちゃんの動作をよく見ていて、真似っこしてよく動き回っていた。「風のかかりやってくれる人は「は～い」2人がてをあげた。大きな布を持つなどまーちゃんのアシスタントになってやりとりもほほえましかった。大きな円には入れなかったけれど、小さな子たちは、おかあさんとちゃんと踊っていて、楽しそう。まーちゃんの子どもたち、おかあさんたちへの「すごいじょうず、みんなじょうずでいいですね、」いい雰囲気です声かけてくれて最高でした。

保護者からの声

- ・サメの歌が好きだったみたいでたくさん笑顔が見れました。家でもいっしょにおどってみます。
- ・子どものペースに合わせてやっていただけだったので、とても楽しかったです。
- ・本人の気持ちを自由に表現できた時間を感じました。苦手そうな表現タイムでも音には反応しているなど、子どもの新しい様子をみる、とてもよい機会でした。

施設関係者からの声

- ・緊張している様子だったが、体を動かしたすと 皆楽しんでた。下のお子さんは保育者が見ていたため、親子でじっくりかかわっている様子がみられ、嬉しかった。

（コーディネーター 椎名好子 棚田純子）

実施施設：三里塚なかよしひろば

プログラム名：「歌子さんのはじめてのコンサート」



実施場所：三里塚コミュニティセンター2F 多目的室

実施日時： 2021年 10月 14日（木） 10:30～11:30

参加者数：総数 31人

乳幼児 13人(0歳:5人 1歳:5人 2歳:2人 3才:1人)

大人 18人(保護者:12人 施設関係者:5人 行政職員:1人)

スタッフ数：パフォーマー 2人（歌子さん ぴんたろーさん）

コーディネーター2人(滝口淳子 中村雪江) スタッフ(買場都明)

プログラム内容

・「初めましてこんにちは」みんなのお名前を呼びますよ ・「シャボン玉」 ・「キツツキさん」で体動かしてリズム遊びとまねっこ遊び ・「ほっぺにちゅ」で親子ふれあいあそび ・ピンちゃん登場いろいろな音で遊ぼう ・「幸せのはかり方」 ・「ゆりかごの歌」

当日の様子

- ・0歳児が集中してじーっと歌子さんを見つめている。お母さんたちが安心した様子で、歌子さんの声を聞き入っている。固まっていた頬がだんだん緩み、いつのまにかにっこりしている。
- ・2歳女兒、お母さんの膝の上に寝そべり顔だけステージに向けてしっかり聴いている。楽器に興味があり楽器を自分で並べて叩き、音の違いを楽しんで、最後の一人になっても離れなかった。やがて心が満たされたらしく、バイバイとニコニコ顔で帰っていった。「待つ」「見守る」大人がそこにはいた。
- ・「ほっぺにちゅ！」で顔や腕や足、体にポンポンされて喜んでた。ご両親と来ていた1歳女兒、キツツキさんの時お父さんが歌に合わせて抱っこしたまま思い切り後ろに転がるのが楽しく、大喜びをしていた。どの子どもどの親も元気一杯楽しみ、わー！きゃっ！楽しい声が上がっていた。
- ・ぴんたろーさんがジャンベを叩いて反対側から空気が飛び出るのを感じさせると、どの子どもびっくり。1歳男児が途中で部屋から出ていこうとしたが、ぴんたろーさんのパフォーマンスに耳目を奪われ戻ってきた。何回も不思議そうにぴんたろーさんに叩いてもらってニマニマとご機嫌だった。
- ・「幸せのはかりかた」歌子さんの美しく優しい歌声に、お母さんのみならず職員も聴き入った。涙ぐむお母さんもいて、歌を通してパフォーマーからのメッセージが伝わり、癒しと温かい笑顔に包まれた。

保護者からの声

・美しい歌声が心に響いた ・歌子さんの優しい歌声とぴんたろーさんの織り成す楽しいメロディに癒されました。・子どもたちが見入っていたのがすごい。 ・家でたくさん歌ってあげたいです。

施設関係者からの声

2組は初めてこのために三里塚まで来た親子でしたが緊張せずに過ごすことができ良かった。里帰り出産で実家に来ている方も来ていました。歌子さんとぴんたろーさんの持つ歌の力をとどけることができ、誰もが優しい表情になられたのがとてもよかったです。

(コーディネーター 滝口淳子 中村雪江)

実施施設：市川市昭和学院もこもこ・こどもセンター

プログラム名：「おやこでニコニコふれあいあそび！」



実施場所：市川市昭和学院もこもこ・こどもセンター

実施日時：2021年 10月 18日（月） 10：10～11：10

参加者数：総数 19人

乳幼児 7人（0歳：5人 1歳：2人）

大人 12人（保護者7人 施設職員3人 行政2人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（大森靖枝）

コーディネーター2人（買場都明 宇野京子）

プログラム内容

①手をパチパチたたく、たたかないゲーム ②抱っこの遊び ③なーんだろな、なんだろな・・・ウッドブロックで施設の先生が参加 ④うさぎのモモちゃんのお話 ⑤マヨネーズの容器の笛で ⑥紙袋・・・お買い物、バス、乗り物あそび ⑦かばさんのマスク

当日の様子

・拍手のゲームでまずはママ達が笑顔に。「小さい人は言葉をしゃべらなくても会話をしてあげて、聞いてあげる、話しかける、が大事。言葉を持たない人たちなので、ママ達が答えてね。」と大森さん。
・赤ちゃん達の視線はママ達と同じ方向。楽器の音、語り掛け、笑顔、楽しい動作全てを五感で吸収して大森さんに釘付け。ママにしがみついていた子も、歌声に合わせてママが揺れるとニコニコになる。
・マヨネーズ容器の汽笛、大森さんとスタッフが汽車ごっこを始めると、1歳児の手が自然にガタンゴトンと動く。ママ達の膝が汽車になる。チューリップの歌では風で揺れる花のように、ママの体ごと揺れて、ママ達も子どもたちも本当に居心地のいい笑顔だった。
・空を飛ぶシーンで、ハイハイのお子さんをフワと抱き上げ、お話を一緒に楽しむママ。紙袋のカバさんのお話が始めると、どうなるのかなとママの膝に立ち上がり支えられて身を乗り出す子。繰り返しの歌では、リズムをとって膝が弾んでいる子。ハイハイでお散歩する子にも、そばのお母さんがそっと話しかけ、会場が和やかな空気。カバさんがバイバイとすると、楽しそうにずっと手を振る子ども達。40分間集中して耳を澄まし、見て真似して、ママと一緒に楽しんだ。

保護者からの声

子どもの様子：①わらっていた2人 ②興味深く見たり聞いたりしていた6人 ④まねをしていた1人 ⑥緊張していた2人 保護者の気持ち⇒ ①たのしかった6人 ②いやされた3人 ③うれしかった4人 ⑥つかれた1人 ・お家遊びの参考になった。・船や飛行機の動きが楽しかった。家でもやってみます。・コロナで人とのふれあいが少なかったので、こういったイベントに参加できてとても良かった。・まだ10か月なのに、じいーっと見ていた。 ・ハーモニカの楽しい音に反応していた。

施設関係者からの声

子どもたちはお母さんに共感を求めている、気持ちを受け止めてもらえて動く。ここに来たお母さん自身が楽しんでた。家事をしながら日常の中のもので、楽しむヒントをもらえたと思う。

行政からの声

あんなに小さい子が入り込む、赤ちゃんがあんなにじっと見る、聞くなんて驚いた。引きつける力すごいなと思った。コロナの中、行き場のないお母さん方に来てもらえて素敵な時間になった。本当にこういう事業を自治体が実施できたらな、と改めて感じた。

（コーディネーター：買場都明 宇野京子）

実施施設：小倉台いろは保育園

プログラム名：「人形劇団のはな にこにこげきじょう」



実施場所：小倉台中央自治会館 1F ホール

実施日時： 2021年10月18日（月） 10：15～10：55

参加者数：総数 19 人

乳幼児 14人(1歳：7人 2歳：7人)

大人 5人(保育士：5人)

スタッフ数：パフォーマー 2人(納富俊郎 納富祥子) 設営2人(齊藤まり子、浅川さよ子)

コーディネーター2人 (大森智恵子 中村雪江)

プログラム内容

- ・オープニング こぶたぬきつねこ
- ・ウレタンロボット
- ・紙の袋で作ったカエル、カミレオン、ウサギ
- ・ピョンちゃんケロちゃん
- ・くねくね人形、でんでんむし、ねんねこねこのこもりうた

当日の様子

- ・子どもたちが通う保育園から400メートルほど離れた自治会館が会場になった。園長先生と4人の保育士と手をつないでお散歩のように自治会館に到着。玄関でひとりひとり靴を脱いで上がり、ホールに入り着席。0歳児クラスは給食時間にかかってしまうため、保育園でお留守番になり、1歳児クラス7人と2歳児クラス7人になりました。
- ・全員がそろって席につき、園長先生のご挨拶に続いて、大きな紙コップからピンクの豚の顔が「♪こぶた たぬき…」ととびだした。子どもたちの目は人形の動きにくぎづけになり、人形が「♪こぶた」と言うのに続いて子どもたちも「♪こぶた」とちょっと小さな声でいっしょに歌い始めた。
- ・登場するイモムシに1歳児は「アレ！」と指をさし、保育士の相づちを待つ。
- ・すっかりリラックスしたスタイルで足を伸ばしたり、寝そべったりしながらも、人形に見入っていた。

保育士からの声

- ・ほとんどの子どもが40分間も楽しそうに参加したことにびっくりするとともに、子どもたちをひきつける力にびっくりしました。私も勉強になりました。
- ・子どもたちがとても楽しく笑顔いっぱい話にひきこめれていく様子がありました。職員も楽しく参加できました。封筒でもカエルやウサギが作れるのがわかり参考にしたいです。
- ・身近な素材で楽しい生き生きとした動物を作ることや、大人も引き込まれてしまう話術には敬服しました。参考にしたいです。

いろは保育園園長先生からの声

- ・このような機会をつくってくれたことに感謝します。小さな子どもたちが20分もみられたらよいかと思っておりましたが、40分も観ていました。本当に驚いています。このように小さい子たちも観ることができる人形劇があるんですね。

(コーディネーター 大森智恵子 中村雪江)

実施施設：袖ヶ浦市根形公民館

プログラム名：「にこにこげきじょう」



実施場所：袖ヶ浦市根形公民館視聴覚室

実施日時： 2021年 10月 20日（木） 10:30～11:10

参加者数：総数 28人

乳幼児 11人(0歳：1人 1歳：4人 2歳：5人 3歳以上：1人)

大人 17人(保護者：9人 行政・施設関係者：6人 地域：子ども一ふ袖ヶ浦2人)

スタッフ数：パフォーマー 2人(納富俊郎 納富祥子)

コーディネーター2人(買場都明 中村雪江)

プログラム内容

こぶたぬきつねこ ウレタンロボット君 むしゃむしゃ君…カバンの中から、カエル君、カミレオン君、うさぎ君 ピョンちゃんケロちゃんとカエルの歌 くねくね ねんねこねこのこもりうた

当日の様子

4色に彩色した「こぶたぬきつねこ」が大きなコップから♪こぶた ♪たぬき ♪きつね ♪ねこの歌に合わせて頭を出したり引っ込めたり、その彩のきれいさや生きているような表情のゆたかさで、会場全体が和み、親子は一気に笑顔になった。ウレタンロボットでは「かわいいね」「犬、犬だね」と子どもの声が飛び交う。人形の動きのマネもしたり、ママの膝を離れて前に出たり戻ったり、嬉しくてたまらないようにはしゃぎまわって笑う。首を伸ばして、まばたきしないで目でじっと追っている。そして、飛び跳ねてニコニコ。子どもたちは、体全体で嬉しい、おもしろいを表し、ジャンプジャンプ。そしてママの方を向いてもジャンプジャンプ。舞台の面白さにすっかりはまり、お母さんたちもゲラゲラ笑いっぱなし。カエル君のジャンプでは、はえーの声にママ達は一層の大笑い。「せーの」でジャンプでは、「せーの」の前からばんざーいをする子、ママの膝に上ったり、ママの体にくっつきながら思いっきりリラックスしている。次の音楽が始まると、じっと耳を澄ます。ウレタンの棒が、くねくね、クルクルまくと、2歳児から「かたつむり」の可愛い声。後ろの子は、人形の動きにつれて、体を右に、左に揺らしてのぞきこんでいる。アカペラの子守歌では、ねこの子と同じように、自然にママが抱っこして体をゆすっていた。

保護者からの声

- ・娘が知っていた歌があったので歌いながら楽しんでいました。初めて走り回らずにみられました。
- ・普段、外ではくっついて離れない子が、ジャンプしてみていた。楽しくてニコニコでした。
- ・子どもがとても楽しそうに見えて、声を出して笑っていて私もうれしかったです。
- ・シンプルなウレタンの人形があんなにおもしろい動きをするなんて！！ 子どもより見入ってしまいました！子どもも私も集中して見られたので、お膝の子どもの存在を忘れるくらいでした。

行政・施設関係者からの声

- ・とても楽しく時間があっという間でした。楽しんでくれておる親子さんたちの表情がよくて、うれしかったです。またやりたいです。来年も実施したいです。

(コーディネーター：買場都明 中村雪江)

実施施設：野田市北コミュニティーセンター

プログラム名：「にこにこげきじょう」



実施場所：野田市北コミュニティーセンター

実施日時：2021年 10月 21日（木）10：30～11：10

参加者数：総数 14人

乳幼児 6人（1歳：1人 2歳：5人）

大人 8人（保護者：4人 保育士：1人 看護師：1人 施設関係者：2人）

スタッフ数：パフォーマー 2人（納富俊郎 納富祥子）

コーディネーター2人（岡田泰子 中村雪江）

プログラム内容

こぶたぬきつねこ ウレタンロボット君 むしゃむしゃ君…カバンの中から、カエル君、カミレオン君、うさぎ君 ピョンちゃんケロちゃんとカエルの歌 くねくね ねんねこねこのこもりうた

当日の様子

最初にキレイな色で子どもたちの目を引く「こぶたぬきつねこ」が登場。大きなコップから「♪こぶた♪たぬき♪きつね♪ねこ」の歌に合わせて頭を出したり引っ込めたり、会場全体が和み、緊張していた親子が笑顔になった。保育士さんやお母さんの膝にすっぽりと抱かれ、ポカンと口を開け、目はしっかり人形を追っている。ウレタンロボット、あおむしくんやはなちゃんでは、人形の動きに引き付けられ、立ち上がって興味津々で覗くように見ている。紙で作ったカミレオンがハエを食べる瞬間、うまく捕まえることができお母さんの方がびっくりして拍手していた。お膝の子どもに、顔を覗くように話しかける様子があり、乳幼児の親子ならではのほほえましい光景だった。カエル君のジャンプでは、「せーの」でママに抱きかかえてもらってジャンプジャンプ。ねんねこの子守歌では、ねこの子と同じように、ママが抱っこして体をゆすっていた。交流の時間では親子でコップんこ人形を動かしたり、人形のワンちゃんと触れ合って会話をし一緒に歩いたり、嬉しそうに遊ぶ子どもの笑顔がいっぱいだった。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた2人 ②興味深く見たり聞いたりしていた4人 ③あきたようだ1人 ④緊張していた1人 保護者の気持ち⇒①たのしかった4人 ②いやされた1人 ③うれしかった3人
・すごく楽しんで参加できました。また是非みたいです。
・おもしろかったです。・あまりこういった場所に連れてきたことがなかったので、ともに良い体験ができました。とても楽しかったです。

施設関係者からの声

・人が大勢いる場に慣れていないママたちが参加していたので、お子さんはやはり緊張している様子でした。それでもママが話かけたり、子どもがおちつく体制でみていたので、泣き出したりイヤがる様子もなく、劇に出て来る人形たちがみなユニークで、お話しもとても楽しく、引き込まれた
・コロナ緊急事態解除後、はじめて会場使用が可能になり、まだまだ出控えている状況の中での実施でした。コロナ禍がなかったらもっとたくさんの親子に見てもらいたかったのですが、少人数でもったいなかった。

（コーディネーター 岡田泰子 中村雪江）

実施施設：松戸市おやこ DE 広場小金原

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：松戸市おやこ DE 広場小金原 1F 和室

実施日時： 2021年 10月 22日（金） 10:00～10:50

参加者数：総数 14人

乳幼児 6人（1歳：5人 2歳：1人）

大人 8人（保護者：6人 施設関係者：2人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（安西真幸）

コーディネーター2人（中村幸恵 中村雪江）

プログラム内容

手をパー グー エイエイオー⇒トトロのさんぽの曲でダンス 手で小さく・大きくパクパク 猫の鳴き声・水の音・ビヨ～ン キュッキュッ⇒みんなで歩きながら音に合わせて動き表現して回る 布であそぶ パプリカ

当日の様子

開始前、まあちゃんは子どもたちのいる部屋でストレッチをしていて、さりげなく一緒にいる人になっていた。子どもたちはお名前を呼ばれて「はい」と手を上げる。おさんぽ、手がパーでミッキー、グーでエイエイオー、両手を合わせてお口がパクパクなど様々な動きで子どもたちの視線を引き付けていく。お母さんたちも一緒になって楽しそう。ジッと見る子、そっとやっている子、うきうきして高速ハイハイをしていた子が歩き出し、身体も気持ちもほぐれていく。グーやパー、ハイハイなどを組み合わせ音楽にのせるとダンスの出来上がり。あ！ダンスになっている！とママたちの声。猫の鳴き声、水の音、ビヨ～ンとかいろんな音に反応して声を上げ、安西さんを真似して動き回り、表情も豊かに振りをつけて踊り回る。トトロの散歩の曲で冒険が始まり、長い布を飛び越えたり、くぐってみたりワーワーと大きな声を笑い声が響く。大好きなパプリカを2回も踊っておしまい。子どもに付き合うというより動いて声を上げて笑ってお母さんたちがとにかく楽しそう。少しおしゃまな2歳の女の子は、いつも様子と違うせいかスタッフに抱っこをせがんだりしてぐずっていたが、まあちゃん先生が一人一人に話しかけて目を合わせ、やさしさに安心したのか、いつの間にか安西さんのお膝に乗ったりしてご機嫌な感じになった。お母さんのそばを離れないはにかみ屋さんも、気持ちはみんなダンシングだった。

保護者からの声

- ・音楽に合わせて踊ったのが新鮮だった。家にいるときにやってみよう！と思いました。
- ・まあちゃん先生は親しみがある人でした。他のママにもおすすりめしたい。広場でもまたやってほしい。
- ・もっと何回もやりたい。

施設関係者からの声

- ・コロナ禍でお家時間が多い親子にとって体を動かすことができ、家でも取り入れられると思った。
- ・まあちゃん先生の笑顔がステキだった。動きもわかりやすく子ども視線でよかった。40分の流れもよかった。

（コーディネーター：中村幸恵 中村雪江）

実施施設：そうふけつどいの広場

プログラム名：「にこにこげきじょう」



実施場所：そうふけつどいの広場

実施日時：2021年 10月 22日（金） 11:00～11:40

参加者数：総数 28人

乳幼児 12人（0歳：3人 1歳：2人 2歳：6人 3才：1人）

大人 16人（保護者：10人 施設関係者：2人 行政：4人）

スタッフ数：パフォーマー 2人（納富俊郎 納富祥子）

コーディネーター2人（鈴木佳子 滝口淳子）

プログラム内容

コケッコごあいさつ こぶたぬきつねこ ウレタンロボット むしゃむしゃくん
びよんちゃんケロちゃん くねくね ねんねこねこのこもりうた かえるの歌

当日の様子

最初泣いていた女の子、納富さんからお人形をもらって、泣き止み良く見ていた。0歳は乗り出してみ、手をパチパチしている。ウレタンロボットにみんなびっくり。お母さんたちもリラックスして楽しんでいた。むしゃむしゃくん（封筒人形）お母さんたちも関心しながら、楽しんでいる。「カミウサギ」ウサギが出てきたら、跳ねてウサギの真似をしている女の子。くねくねの音に合わせて女の子が踊っていた。立って前に出ていったがアヒルのお母さんを見ていて照れくさそうにニッコリ笑いお母さんの所に戻っていった。ねんねこねこの子守歌は、お膝の上でママといっしょに体をゆすっている。

0歳の赤ちゃんニコッと笑い、拍手してお母さんの顔を見上げていた。大人もみんなほっこりした様子で舞台に釘づけでした。

舞台前にチョロチョロ出て行ってしまった1歳児、ウレタンロボットを持った納富さんがスーッと近づき、優しい声で人形と一緒にと声かけたら、満足そうに帰っていった。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた7人 ②興味深く見たり聞いたりしていた10人 ③あきたようだ1人
④まねをしていた3人 ⑥緊張していた1人 保護者の気持ち⇒①たのしかった10人 ②いやされた5人 ③うれしかった2人

・とても楽しい時間で私もリフレッシュさせてもらいました。・大人も子どもも安心して最初から最後まで楽しめました。貴重な体験をありがとうございました。見てくれるか心配していましたが真剣に見て、くぎづけになっていました。・声色の伝え方や動かし方、プロの方ってすごいなあって思いました。家で歌ったり頂いた人形を動かして遊びたいと思います。

施設関係者からの声

・0歳の赤ちゃんが眼をキラキラさせて、体をゆらゆらさせて、物語の世界に入り込んでいる事に驚きました

・泣いていた子も、お話が始まったとたんじーっと見ていて、引き付ける力のすばらしさを感じました。

身近なものを工夫して作っていたので参考にさせていただきたいと思います。表現力見習いたいです。

・プロのパフォーマーの方の声のトーンや子どもが思いがけない行動をした時の関わり方素晴らしかったです。
(コーディネーター：鈴木佳子 滝口淳子)

実施施設：横芝光町子育て支援センター横芝

プログラム名：「おやこでニコニコふれあいあそび！」



実施場所：横芝光町子育て支援センター横芝

実施日時：2021年 10月 28日（木） 10:20～11:10

参加者数：総数 38人

乳幼児 18人(0歳:2人 1歳児:9人 2歳児:4人 3歳児3人)

大人 20人(保護者16人 施設職員4人)

スタッフ数：パフォーマー 1人 (大森靖枝)

コーディネーター2人 (中川香子 綿貫のぼら)

プログラム内容

手でパチパチたたく、たたかない・・・ なーんだろな、なんだろな うさぎちゃんとももちゃん、マヨネーズの容器の笛 みんなで電車ごっこ かばさんのマスク ・子育てミニトーク

当日の様子

ラップが「ぷーっ！」と鳴る。瞬間子どもたちおおちゃんを注目！じっーと目で追っている。「なんだろな？ なんだろな～？」の声と動きと一緒に体を動かす 「りんご！」「正解！」パチパチと自分で手をたたく。お母さんの隣で笑顔が出てきた。体をお母さんに預けて心地よさそうにしているキッチンセットのおもちゃが気になる子がおもちゃに突進していき、扉をがたがたするが他の子は気にならない様子で大森さんの演技に集中している。ウサギさん、ももちゃん、こけこっこ！いろいろな絵が出てきた子どもたちは目で追っている。8ヶ月の赤ちゃんもじっーと見ていたが、そのうちに寝てしまった。

先生たちも大森さんのお手伝いで楽器をたたいたりして参加した。知っている先生の参加はうれしくて、みんなが安心できる。黄色の布をバナナの皮をむくようにはぎとると、出てきたのはマヨネーズの空容器。水が入っていて「吹いてみるよ。ぽーっ～」電車が走るような音にみんなびっくりしていた。「しゅっ しゅっ ぽー しゅっ しゅっ ぽー」マヨネーズの笛に合わせて、電車ごっこが始り、全員で連らなって会場を走った。最後ピアノの演奏とともに一人一人にごあいさつで終えた。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた8人 ②興味深く見たり聞いたりしていた10人 ③あきたようだ3人 ④まねをしていた5人 ⑥緊張していた1人 保護者の気持ち⇒①たのしかった12人 ②いやされた4人 ③うれしかった2人 ④安心できた2人 ⑤ホッとした2人 ⑦子どもの様子が気になった4人 ・子どもを引き付けるのが上手で、スムーズに大森さんの世界へ引き込まれていました。時間もちょうどよく楽しくできました。身近な道具のできる遊びが沢山あったのでまねしたいです。大人向けの話も参考になりました・ぐずることなくじっーと見ていてよく聞いているなど普段の生活ではない経験でした。・マヨネーズの容器に水を入れて音を出してみたいと思いました。

施設関係者からの声

・楽器や小道具を用いることで、子どもたちの興味も高まった。どの月齢の子も引き込まれるように見たり一緒になって手拍子し、傍で見ていた母親も笑顔になっていました。・手を叩いたり、笑ったり母親自身も楽しんでいる様子が表情から感じられた。興味の度合いには、個人差があり、笑顔を絶やさず楽しい雰囲気だというのを心がけた。(コーディネーター：中川香子 綿貫のぼら)

実施施設：習志野市こどもセンター

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：習志野市こどもセンター 園庭

実施日時：2021年11月11日（木） 10:15～11:15

参加者数：総数 85人

乳幼児 41人（0歳児：5人 1歳児：22人 2歳児：10人 その他：4人）

大人 44人（保護者 36人 施設職員 5人 行政 3人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（安西真幸）

コーディネーター 2人（大森智恵子 綿貫のぼら）

スタッフ 4人（桑原信子 栢まゆみ 横山智子 万木 恵）

プログラム内容

①曲にあわせて拍手から「グウ・パー」のダンス。②参加者の名前を呼ぶ。「～さんちの〇〇ちゃん」「まあちゃんですよろしく」③キュッキュッ「ミャ～ミャ～」「水の中プクプク」「ビョンビョンボンボン」「風の音ビュウビュウ」とまねっこダンス。④大きな布を風に見立てて園庭中を駆け回る。くぐったり、ジャンプしたり。⑤「さんぽ」曲にあわせて歩きまわる

当日の様子

晴天に恵まれ、ミッキーマウスマーチの曲にあわせて拍手しながら「グウ・パー」のダンスが始まった。安西さんが「～さんちの〇〇ちゃんどこかな?」「まあちゃんです。よろしく」と参加者を呼び始めグウタッチしたり頭を下げたりしながら園庭を走り回る。お母さんも子どもも嬉しそうだ。

まあちゃんが「ガラスをこするような音キュッキュッ」に合わせて窓をこすっている。あれなにしているのかなとポカンとしている子。リズムに合わせてバケツをたたく子。「子猫のような鳴き声ミャ～ミャ～」四つん這いに歩き回るまあちゃんに真似っこしている子ども。「水の中プクプクボコボコ」砂場の魚の形のおもちゃを探してくる子も。「バネが伸びるような音ビョンビョンボンボン」しゃがんだり、立ち上がったたり、ジャンプしたり、だんだんと音に反応して自由に表現して楽しい雰囲気が園庭の中に広がっていった。「風の音ビュウビュウ」にあわせてまねっこ、のびのびあそび走り回っていた。0歳児の親子も子どもたちの様子を、ゆったりと見ていた。まあちゃんも「いいですね～」「すごい」と子どもに声掛けして子どももママも嬉しそう。大きな布を風に見立てて園庭中を駆け回る。子どもはくぐったり、ジャンプしたり、つかんだり。落ち葉の舞う園庭で楽しいワークショップとなった。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた(9人) ②興味深く見たり聞いたりしていた(13人) ③あきたようだ(2人) ④まねをしていた(10人) ⑤ふだんみられないようなうごきをした(3人) ⑥緊張していた(8人)
保護者の気持ち⇒①たのしかった(20人) ②いやされた(5人) ③うれしかった(8人) ④安心できた(1人) ⑤ホッとした(1人) ⑦子どもの様子が気になった(6人) ⑧緊張した(2人)

・他の遊びをしていたところ、面白いように誘いだされていって、楽しそうに参加している姿に親としても嬉しかったです。

行政からの声

久しぶりの行事という事で、お母さんたちもリフレッシュできた様で、とても有難い一時だった。あっという間にお子さん、お母さんと輪になって楽しむ先生の話術や雰囲気がとても魅力的で参考になった。

(コーディネーター 大森智恵子 綿貫のぼら)

実施施設：ひよしだい保育園

プログラム名：「歌子さんのはじめてのコンサート」



実施場所：ひよしだい保育園多目的室

実施日時：2021年11月17日（水）10:00～11:00

参加者数：総数 25人

乳幼児 17人（0歳：5人 1歳：6人 2歳：6人）

大人 8人（保育士：6人 施設関係者：2人）

スタッフ数：パフォーマー 2人（歌子さん ぴんたろーさん）

コーディネーター2人（滝口淳子 中村雪江） スタッフ（買場都明）

プログラム内容

・「初めましてこんにちは」みんなのお名前を呼びますよ ・「キツツキさん」で体動かしてリズム遊び
とまねっこ遊び ・大型絵本「あめふりくまのこ」 ・金太郎でハイシドウドウ ハイシドウドウ 立
ってジャンプ ・ピンちゃん登場いろんな音で遊ぼう ・七つの子 ・楽器に触れ交流の時間

当日の様子

会場に入るなり0歳児の数人が大泣きをはじめ。すかさず、ぴんたろーさんは楽器の音を出し、ころがして、気持ちを楽器に向けさせた。ピタリと泣き止んで、歌子さんの歌ではじまる。保育士さんに子どもの名前をききながら、よろしくのごあいさつ。キツツキさんで1歳～2歳の子たちが歌子さんの手の動きに合わせて、膝をたたいたり手を挙げて真似を始めた。大型絵本「あめふりくまのこ」では、きれいな歌声と、かわいいくまさんの絵本をじーっと聞いている子、前に出たくて仕方がない子もいた。開始20分、1人がぐずり始め、保育士さんの腕の中で寝入りはじめた。他保育士さんのお膝にすっぽり入っていた子、1人でお座りしていた子、4人が一斉に寝入った。床に寝かせても起きない。

金太郎の歌に合わせて立ち上がってジャンプ！ジャンプ！子どもの笑顔がだんだん広がった。楽器の音がすると？！？！ スゴイ反応を示す。楽器の輪っかが転んでしまい、男児が捜してもってきて、とんがった差し入れる棒にうまく入れてくれた。ぴんたろーさんも保育士さんも褒めると、嬉しそうな顔をした。最後の1曲、七つの子、美しい歌声に体をゆらしながら聴き入った。

●楽器に触れる交流の時間

楽器の大きな音があっても起きてこない4人。保育士さんが起こし、すぐに楽器のところに。自由に楽器にさわって音を出した。ぴんたろーさんと、ジャンベのまわりで数人の子どもがとびきりの満足した笑顔でたたいている。何度も何度もたたいて喜んでた。なかなか楽器にさわりに行けない子どもには、保育士さんが手を引いて連れていき触れさせた。誰も止めることなく30分間楽しんで十分満足した様子で、全員が可愛いお礼のあいさつをして退室した。

施設関係者からの声

・子どもたちの興味津々な表情がとても可愛らしく、最初は泣いていた子もキレイな歌声や音色につつまれてすやすやと眠ってしまうほど気持ちが良く参加できていた。
・歌いながら絵本が進んでいったり、体を動かしながら歌をうたうことでいつもとは違う楽しさになるということが職員もすごく勉強になりました。楽器に触れると笑顔がとても楽しそうでした。

（コーディネーター：滝口淳子 中村雪江）

実施施設：臼井老幼の館

プログラム名：「おやこでいっしょにダンスあそび！」



実施場所：臼井老幼の館ホール

実施日時： 2021年 11月 25日（木） 10:30～11:30

参加者数：総数 29人

乳幼児 10人（0歳：1人 1歳：4人 2歳：5人）

大人 19人（保護者：10人 施設関係者：7人 行政2人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（安西真幸）

コーディネーター2人（滝口淳子 中村雪江）

プログラム内容

ミッキーマウスマーチで歩く 名前を呼ばれてはーい 真似をしながらベビーシャーク：指先で小さくパクパク 手首で少し大きくパクパク 腕を伸ばして大きくパクパク にゃあ～にゃあ～：ネコになって転げて足を上げる キュッキュッとさする（足 頭 肩 背中 おしり） ブクブク泳ぐ びよ～んびよ～ん トトロのさんぽの曲でダンス 風が吹いてきたた！布であそぶ パプリカ

当日の様子

早めに会場にきた子どもとあそんでいるまあちゃん。ミッキーマウスのメロディに乗って輪になって電車ごっこ。お母さんたちもガタンゴトン♪と声を掛け合い、手をキラッキラッ 手を上にあげて体を伸ばす 手をパチパチパチパチ うさぎさんだよ どんどんポーズをつけていく。すぐに1歳児の女の子が輪の真ん中でまあちゃんの振りをよく見て、すぐに真似てニコニコ顔で踊っている。「いいですね！」まあちゃんの誉め言葉がうれしい。じいっとみている子もしばらくして、ママの膝から立ち上がり体を動かし始めた。向かい合って手をつなぎ、ママの足をピョンピョンと飛んでまたぐ。ゴロンと寝転んだパパをまたいで飛び越える。突然風が吹いてきた。布が空中を舞い、子どもたちの頭を通り過ぎる。今度は布を飛び超える。わあわあ～と楽しそうな声が会場に響いている。さんぽの曲に合わせてリズムカルな足踏み、今までやったポーズを「あ、ヤッター、あれだ！」という笑顔で、親子でワイワイ楽しんでダンスを踊った。最後パプリカでは、ママたちのおお！と満足しきった声が出て踊った。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた6人 ②興味深く見たり聞いたりしていた6人 ④まねをしていた6人 ⑤ふだんみられないようなうごきをした3人 ⑥緊張していた8人 保護者の気持ち：①たのしかった10人 ②いやされた4人 ③うれしかった4人 ④安心できた1人 ⑦子どもの様子が気になった2人

- ・他の子どもたちとかかわることが少ないので音楽を通じてかかわりを持ってよかった。
- ・ダンスあそびをする機会が今までなかったので新鮮で楽しかった。子どもが楽しく踊っていた。
- ・初めての利用でお友達がいっぱいできてとてもたのしかったです。体を動かすことが好きなので、またダンスがあれば参加したい。

施設関係者からの声

- ・親子で楽しそうに踊って、子どもたちのかわいらしい動きがみられてよかったです。
- ・小さな子たちがまあちゃんの振りを真似してすぐに踊っていました。・まあちゃん先生の生き生きした動きがよかったです。こうした機会が必要ですね。

（コーディネーター：滝口淳子 中村雪江）

実施施設：市原市里見小規模保育所

プログラム名：「歌子さんのはじめのコンサート」



実施場所：市原市里見小規模保育所 ホール

実施日時：2021年 11月 30日（火） 10:00～11:00

参加者数：総数 17人

乳幼児 6人（1歳：4人 2歳：2人）

大人 11人（保護者：6人 保育士：4人 行政：1人）

スタッフ数：パフォーマー 2人（歌子さん ぴんたろーさん）

コーディネーター2人（買場都明 中村雪江） スタッフ（船山慶子）

プログラム内容

リズムによって喜び踊る はじめまして こんにちは 大工のキツツキさん ほっぺにちゅっ 幸せのはかりかた 楽器であそぶ 寿歌 七つの子 終了後、楽器に触れて遊び交流

当日の様子

居慣れた園のホールが、入ってみるといつもの様子と違うと、一瞬感じた園児が不安そうな顔をしてママに駆け寄り、泣き始めた園児もいた。もう一度ママに抱かれて入ってきたところを、ぴんたろーさんの「楽器を使った魔法の泣き止みクスリ」がすぐに効き、ママのお膝でじっと見始めた。多少緊張気味の子どもたちが、「♪だいくのきつつきさん・・・ オールディーア～♪」を歌いながら、ママといっしょに振りをするうちに顔がほころんできた。お名前を呼ばれて「は～い」とママといっしょに応え、名前を呼ばれた子どもはニコとし、ママはうれしそうな顔になった。ほっぺにちゅっのお人形を子どもたちが一斉に取りにいった。普段の生活が仲良いらしく、1人が行くとみんながついていくほほえましい光景。歌子さんが言うことを理解し、自分のものは自分で確保する園での子どもの姿なのだろう。ぴんたろーさんが「○※×？△◇」と喃語をしゃべりながら、子どもとコミュニケーションをとり、じゃりじゃりじゃりと楽器の音を子どもたちの側で鳴らす。音がすると子どもたちは敏感に反応する。何の音？ 目と耳が楽器に向いている。2組ずつ親子の名前を呼び輪の中心にいて、周りのみんなが成長を喜ぶ歌とダンスを踊って祝う「寿歌（ほぎうた）」は、生まれた喜びと大きく健康に育ててねという願いが込められた唄。胸が熱くなるような歌だ。七つの子のきれいな歌声に合わせ、みんなも歌いながら体を揺らしながらきいた。終了後、見たことも触れたこともない楽器をたたき、ぴんたろーさんを真似してジャンベをたたき、ヤギの爪の楽器に触り、思い思い自由に満足するまで触れていた。

保護者からの声

子どもの様子⇒①わらっていた（2） ②興味深く見たり聞いたりしていた（3）④まねをしていた（1）
⑤ふだんみられないようなうごきをした ⑥緊張していた（1）

保護者の気持ち⇒①たのしかった（7） ②いやされた（1） ③うれしかった（1） ④安心できた（1） ⑤ホッとした（1） ⑦子どもの様子が気になった（1）

とても楽しめました。子どもがノリノリで踊っていましたが、楽器に触れることができよろこんでいてよかったです。/美しい声にいやされました。とてもたのしかったです。/歌がじょうずだったので、途中で子どもが寝てしまいました。家でも歌ってあげようと思います。/楽器に触れる機会がほとんどなかったので、子どもの目が輝いていました。（コーディネーター 買場都明 中村雪江）

実施施設：NPO 法人ねむの里保育所 うさぎとかめ

プログラム名：「み～んなでニコニコふれあいあそび！」



実施場所：NPO 法人ねむの里

実施日時： 2022年 2月 21日（月） 10:00～10:40

参加者数：総数 19人

乳幼児 11人（0歳：2人 1歳：7人 2歳：1人 3才：1人）

大人 8人（保育士：8人）

スタッフ数：パフォーマー 1人（大森靖枝）

コーディネーター2人（滝口淳子 買場都明） スタッフ（中村雪江）

プログラム内容

一緒に手をたたこう。お人形でこんにちは。なんだろな。うさぎのももちゃん。バナナかな？あれ、マヨ笛だ、汽車ポッポー。カバさんのマスク。迷子の猫ちゃんのお母さんを探そう。ご挨拶。

当日の様子

- ・おーちゃんの明るく優しい声「おててパチン できる？」バギーの0歳児が、大森さんの言葉に合わせて足をバタバタ「お、足でやるんだ、すごいねー」と声をかけると得意そうな顔をする。
- ・ぬいぐるみと大森さんが話し始めると、後ろにでんぐり返りするくらい自由に元気な喜び方。一緒に楽しむ先生方の膝で抱っここの1歳児たちもすんなりその世界に入って楽しそうな表情。
- ・うさぎのももちゃんが「やだぶうー●」という度に笑い声が起こる。リズムとテンポが染み入るのか、どんどん食いつくような表情で目を離せない様子。風の真似をしながらも、空に飛ばされたももちゃんを心配しているような、気持ちもリンクして、真剣な眼差しで参加している。
- ・先生にお願いしたウッドブロックを真剣に一生懸命叩く子。じーっと見つめていた1歳児たちが寄ってきてやりたいと全身で表現。3人がウッドブロックを囲む。しばらく見ていた先生が「今度はおーちゃんが使うよ」と言うと納得して大森さんに返す。「言葉を使わない主張と交渉を見ることができて、子どもってすごいなーと改めて教えられました。」と大森さん。
- ・迷子の猫ちゃんのお母さんを探す旅、みんなワクワク。広い会場でやっと見つけた時はどの子どもとっても嬉しそうで満足気。3才児が最初のぬいぐるみの横に猫ちゃんを一緒に置いた。お話の世界に浸りきって楽しんでいる姿に大人は驚きと感激。先生方が子どもたちの一挙一動をととても楽しんでいるので、子どもたちが終始安心して行動しているのが印象的。

施設関係者(保護者)からの声

子どもたちの表情⇒①わらっていた6人 ②興味深く見たり聞いたりしていた7人 ③あきたようだ0人 ④まねをしていた4人 ⑤ふだんみられないようなうごきをした1人 ⑥緊張していた3人 また実施したいですか？⇒実施したい6人

・年令、月齢も小さい子供達が、いろいろな登場人物（動物等）楽器等（音が出る）うたに興味を示し、参加し個々に体を動かしながら楽しい雰囲気です。・子供達があきないように工夫されていて大変勉強になりました。・元気頂きました。・楽器・絵カード・紙袋等子供達の視覚にうったえ、興味を持たせ、体を動かしたり、色々と工夫があり子ども達をたくさん楽しませていただきました。

（コーディネーター：滝口淳子 買場都明）

実施施設：コミュニティ長柄

プログラム名：「わらべうたであそぼ！」



実施場所：コミュニティ長柄養育室

実施日時： 2022年 2月 25日（金） 10:00～11:00

参加者数：総数 33人

乳幼児 17人(0歳：2人 1歳：5人 2歳：5人 3歳：4人 4歳：1人)

大人 16人(保育士：10人 看護師：4人 施設関係者：2人)

スタッフ数：パフォーマー 1人 (大沢 愛)

コーディネーター2人 (買場都明 白鳥みゆき)

プログラム内容

1回目(0歳児と1歳児対象7人)

♪ちっちゃっこ♪たったのねずみ♪てんこてんこ♪とつとのめ♪うまはとしとし♪えっさっさ
♪かごかご十六文♪わたろわたろ(虹の布を使って)♪さよならあんころもちまたきなこ

2回目(2歳児以上対象10人)

♪ちっちゃっこ♪たったのねずみ♪ぎったんぱったん♪こいこいこびきさん♪てんてれすく♪足じゃ
んけん♪おでん♪ま～るくなれ♪かりかりわたれ♪おてらのおしょさんが♪どんぶかっか～つづらの
こ♪わたろわたろ(虹の布を使って)♪(手袋の花を使って)うめのはな～もものはな♪さよならあん
ころもちまたきなこ

当日の様子

1回目(0歳児と1歳児対象) わらべうたが始まるとちょっと不安気だが愛さんを見る。コチョコチョコとくすぐると笑顔が出て緊張感と期待感が混じる。名前を呼ばれじっと見つめる。お馬で全身が動くと笑顔で表情が柔らかくなってきた。顔を見合せてニコニコ。お友だちの顔にタッチ。

2回目(2歳児以上対象)

♪ぎっこんぱったん～は体を大きく動かし楽しそう。「もう1回する？」愛さんの言葉に「うん」と答えた。普段からやっている♪お寺のおしょさんが～は、自分のものになっているからより楽しめ、張り切ってじゃんけんして笑う。♪わたろわたろ～で虹色の布に思わず「きれい！」の声、ゆっくり上がったり下がったする布にうっとりしていた。向かい合う保育士さんが組む腕に乗る「おみこし」は目線が高く子どもにとっては冒険！びっくりした表情から最後は満足した表情に変わった。遊びの中でチャレンジする。次はやってみようとその子のペースで育っていく。

施設関係者からの声

子どもたちの表情⇒①わらっていた5人 ②興味深く見たり聞いたりしていた12人 ④まねをしていた4人 ⑤ふだんみられないようなうごきをした1人 ⑥緊張していた8人

また実施したいですか？⇒16人全員から希望あり

・はじめは緊張した様子だったが笑顔で終わっていた。終わった後に普段よりたくさん声を出していたので、とても楽しかったのだと思った。養育に取り入れたい。・子どもが手の動きをじっくり見ていた。あそびを覚えられたので子どもたちと普段からやりたい。・前日「明日は愛さんがきますよ」と話すと一緒に子どもがわらべうたを歌い始め、「覚えているんだ」と感動した。

(コーディネーター 買場都明 白鳥みゆき)

実施施設：認定こども園四街道さつき幼稚園

講座プログラム名：「支援者のためのわらべうた講座」



実施場所： 認定こども園四街道さつき幼稚園 親子のあそび場りんごルーム

実施日時： 2021年 8月 27日（金） 13:00～15:00

参加者数：総数 14人

大人 14人（保育士：14人）

スタッフ数：パフォーマー講師1人（大沢 愛）

コーディネーター2人（椎名好子 棚田純子）

プログラム内容

○講師 大沢さんから

わらべうたから子どもの心、身体を育てる。（信頼、コミュニケーション、想像する、見る、聞く、感じる、人に伝える）日本の文化、知恵。伝承、暮らしの中に根付いたもの。

「困ったときはわらべうた」わらべうたの習慣3つぐらいあれば、親も子も救われ、骨太の子育てができる。

○わらべうた実践

①ウォーミングアップ「ちょっとばーさん」（ジャンケン遊び）みてまねる、わらべうたの根幹。

②<目と目を合わせ、信頼関係の根っこを育む>

「うんこおー、てんこ てんこ てんこ、にぎにぎ、あわわ」

<ふれあいあそび～心を通わせる>

「てってのねずみ」「はなちゃん」「ギッコン バッタン」「きっこうばい」（手をつないで）

「しおぶりこぶり」（抱っこの遊び）2人組で遊ぶ、みんなで遊ぶ 「いちべいさん」

「かりかりわたれ」 ごっこあそび 「てるてるぼうず」「どんぶかっか」

③質問・感想

当日の様子

・ウォーミングアップ 「ちょっとばーさん」（ジャンケン遊び）は、だんだん盛り上がり真剣そのものの、歓声があがって、大人も真剣に遊ぶ、いい顔していました。

・熱心に集中して聞いていた。自身の事も素直に話していた。・講師の話しに、共感・実感、うなずいていた。・「ギッタンバッコン」足を延ばすバージョンに悲鳴が上がり、みんなで大笑い

受講者からの声

・わらべうたを知って保育の中でうたっていくことで子どもたちと楽しんできたいと感じた。

・そこにいる大人の意識ひとつで保育に取り入れることができるんだなと感じた。

・今日聴いたなかでは、とてもかんたんなもの、短いものもあったので少しずつ覚えて、日常使えるようにしたい。特に「待つ」時間や遊びに入っていない子どもに伝えたいと思った。

・はじめてこのような講座に参加させていただき、とても楽しく勉強になった。自分自身の子育てにも取り入れてみたいと思った！

講師からの声

参加者の皆さんの講座に対する真面目さを感じた。真剣なまなざし、うなずきながら参加されていた。子どもの年齢差がある子育てひろばは修行ですね。発達段階で必要な時に、やり方を工夫、意識を変える。
（コーディネーター 椎名好子 棚田純子）

実施施設：植草学園短期大学

プログラム名：「子どもとあそぶための人形づくり講座」



実施場所：植草学園短期大学 講義室 1

実施日時： 2021年 10月 18日（月） 16：40 ～ 18：10

参加者数：総数 13 人

大人 13 人（保育士をめざす学生：12 人 教員：1 人）

スタッフ数：パフォーマー講師 2 人（納富俊郎 納富祥子）

コーディネーター 2 人（大森智恵子 中村雪江） スタッフ（笠原直子）

プログラム内容

- ・スーパー人形劇
- ・人形づくり
パタパタちょうちょ パタパタことり

当日の様子

- ・講座の始まりは「スーパー人形劇」鑑賞から。スーパーマーケットに行って手にするレジ袋がネコ、ウサギ、キツネ、オオカミ、赤ずきんちゃんへとあつという間に形が変わっていく「スーパー人形劇」という命名とレジ袋が変化していく展開に学生たちが見入っていた。
- ・紙の袋で作ったカエル君がハエを捕まえるためにジャンプ！「みんなも応援しよう！」一斉に「ジャンプ！がんばれ！」と声が出た。
- ・パタパタちょうちょ、パタパタことりづくりでは、材料の色や大きさ、道具の種類が豊富に並べられたのを前に、「キャー きれい！何にしようかな」「超すごーい！」「うわーっこれも使っているの？」と気持ちが弾んでいった。
- ・つくるときの工夫やコツの説明が最初にされていたが、制作途中にも講師に質問しながら積極的につくっていた。
- ・完成品をお互いに見合ったり、満足感あふれた笑顔で作品を持ち帰っていった。

講師からの声

- ・子どもたちが最初に出会う大人が豊かであると子どもたちは豊かになる。人生の始まりを教えるのはみなさんたちで、尊敬します。お母さんが困っているときは助けてあげてください。
- ・今はたくさん作らないとだめです。たくさん失敗するのが大事です。どうしてうまくいかないのかを子どもたちに教えられるからです。



大学教員からの声

- ・私自身が今回のワークショップを通して感じたことは観ることと同時に創ることを体験することで学生の学びが深まることが確認できたことです。保育系の学生なので演ずるという体験も含めるとさらに面白いかなと感じました

（コーディネーター 大森智恵子 中村雪江）

実施施設：市川市八幡親子つどいの広場

講座プログラム名：「えがおがいっぱい表現あそび」



実施場所：市川市八幡親子つどいの広場

実施日時：2021年10月21日（木） 16:15～18:15

参加者数：総数 15人

大人15人（施設職員 13人 行政職員 2人）

スタッフ数：パフォーマー講師1人（大森靖枝）

コーディネーター2人（買場都明 宇野京子）

プログラム内容

キャッチ能力の話・前もって出されていた質問に答える 2人組で1.2.3.1.2.3とポーズをする
お隣さんのお膝ポンポン お隣さんに「笑って」（おこる シャッキリ等）は一いをだんだん大きく
まわしていく 紙ボールをポンポン打つ 手をたたく・たたかない ぬいぐるみでこんにちは なーに
かな マヨネーズの容器で楽器に 紙を使って絵が移動 折紙で指人形 割りばしのケースを動かす

当日の様子

質問に丁寧に答える講師へ引きつけられていく。難しそうな内容は「じゃあ後でやってみるね。接触しないでも今までと同じように遊べるよ。」「子どもにとって大事なことは心が動くこと、楽しいなど自分がそのモードになること、大丈夫クリアできるよ。」と温かいメッセージが伝わる。大森さん自身の空気感が皆に伝わってくる。読み聞かせや広場で子どもを引き付けたいが上手くできない、という人には、「身近で簡単な物から子どもが、興味を持てる方法を具体的に教えてくれるよ。」「あ！それ自分もできそう、それでいいんだ」とハードルが低くなった。ふだんから簡単に絵本で出来る事を具体的に紹介してもらい、感心の声と笑い声が上がる。「子どもは瞬間でキャッチする・・・」など興味をそそられ、メモを取りながら真剣に聞いていた。大きくうなずく人も多い。現実の子どもの姿、現場の様子が浮かんできているよう。円形になって、実際にゲームでの遊びではとても和やかになってきた。笑顔いっぱい。笑い合ったり、汗を書くほど大きく動いて表現していたり。大森さんの気さくな話し方で、できなくてあたりまえ、失敗してあたりまえ、そこが一人一人違う素敵な表現という、エールのようなメッセージが伝わる。

受講者からの声

- ・大人も楽しむ、明るい様子を子どもはよく見ていて、大人自身が楽しむことが大切だと知りました。全部が知りたかったことですのですぐに役に立てたいです！先生の大人をほぐしていくテクニックがすばらしかった。コロナでも交流し子どもの心を育てていくサポートをもっとしていきたいと強く思った。

講師から

- ・入りづらい子いる。興味はあっても、仲間に入れたい、部屋の中に入れたい（大森さん自身がそんな子だった、じっと見て、家でやっていた）その子の心が動いていれば問題ない。
- ・表現あそびは段階を昇るごとく。人は表現したがっている生き物。ずっと一緒にいると、子どもは親に似る、先生に似る。それは一瞬にして空気感をキャッチする。だから自分が、こうやってくれと嬉しいなどと言う姿になることで、子どもがやりたくなるモードになる。

（コーディネーター 買場都明 宇野京子）

実施施設：成田市もりんぴあこうづ

講座プログラム名：「えがおがいっぱい表現あそび」



実施場所：もりんぴあこうづ 2F ホール

実施日時： 2021年 11月 1日 (月) 10:00 ~ 12:00

参加者数：総数 19人

大人 19人 (保育士：18人 行政職員：1人)

スタッフ数：パフォーマー講師1人 (大森靖枝)

コーディネーター2人 (滝口淳子 中村雪江)



プログラム内容

①0.1. 2.3 歳児のこと ③ひものおはなし ④わりばしの袋あそび ⑤導入の仕方(音、動きの工夫)
⑥手をたたく。まねっこ ⑦ぶらぶらてあそび ⑧何だろなカード ⑨トントントンこんにちは(円型で) ⑩おとなりさんのヒザをたたいて笑ってみよう ⑪拍手のリレー ⑫動きを大きくしていく

当日の様子

コミュニケーションをふんだんに取り入れたアクティブな講座で、「うんうん」と、受講生の顔が多く見られた講座だった。「子どもは一瞬にして出会う人、雰囲気似る。空気感をキャッチする力がある。支援者も親も楽しんでやっていると子どもに伝わるのよ。これが講座で伝えたい一番大事なこと」と、大森さんからメッセージが伝えられた。「小さい子は丸いものが好き、0歳の耳はすごくいい」等、0.1.2歳の発達過程や、どの本にもない大森さん自身が実践の中で積み重ねたリアルが満載だった。

身近なものを使った、簡単にできるあそびが紹介され、「わっ！おもしろい」「すぐできそう」と、驚きと楽しさが伝わった。2人で向き合って「まねっこ」をし合いながらゲーム感覚でのあそび、わりばしの袋を使ったあそびでは、「ふー ふー」と息を吹きかけると、面白い動きをするわりばし袋に感心していた。紐を使ったあそびは、1本の紐でいろいろな遊びができることに驚いた。実際に紙を使って「おうち」を作成した。さすが保育士さんたちで、個性豊かな絵が描かれ、それぞれ物語をステキに演じた。マヨネーズの空容器で作った笛で、歌を1曲演奏した。発想の豊かさがおもしろすぎる。

円型になって体を使ってのあそびでは、大きな声も出て、爆笑が起きるくらい。拍手のリレーではリズムカルに、動きを大きくしていくポーズも思いっきり体で表現していた。何もなくても体で遊べること、また身近なもので遊べるのが、どんなに豊かで楽しいかを満喫した。

受講者からの声の

自分のやっていることはよかったと思うことができた。泣いている子どもの対応、音や動きの出し方など、楽しく学ぶことができた。/繰り返しの良さや、むずかしいことを取り入れなくても、子どもたちは楽しい時間を過ごせるとの発見ができてよかった。/心もポカポカ、体もポカポカ。やらされている感じがなくても、やりたい気持ちがかんたんわいてきた。/支援者自身が笑うことの大切さを感じた。

行政職員からの声

楽しくて役に立つ内容だった。1歳の娘がいるので子どもと一緒に家で遊びます。

講師から

在田さんがいい雰囲気を出して参加してくれ、みんなすごいセンスをもって、楽しそうに参加していた。
(コーディネーター 滝口淳子 中村雪江)

実施施設：臼井老幼の館

講座プログラム名：「えがおがいっぱい表現あそび」



実施場所：臼井老幼の館

実施日時：2021年11月22日（火）10:00～12:00

参加者数：総数 20人

大人 20人（施設スタッフ：17人 行政：2人 その他：1人）

スタッフ数：パフォーマー講師1人（大森靖枝）

コーディネーター2人（滝口淳子 中村雪江）

プログラム内容

ミニ講義 1.2.3遊び カッパカッパ カッパ、カッパッパ（手をカッパのマネをしてふる。）

おにぎりおにぎり作りましょ スライド笛遊び 手袋人形遊びの工夫 紙袋遊び 何だろなカード遊び おりがみでつくる指人形 二人で絵を書く うさぎのももちゃんのお話

当日の様子

「子どもは一瞬にして出会う人、雰囲気似る。空気感をキャッチする力がある。支援者も親も楽しんでやっていると子どもに伝わる」と、大森さんからメッセージが伝えられた。実践的なワークの中に、0歳や2歳の発達段階や特徴を織り交ぜ、15個以上のたくさんの遊びが飛び出してくるように次々と展開し、面白くて、おかしくて、そして感心しきりで、おおちゃんの話しっぷりに引き込まれていった。二人組で向き合って順番に3までを数える。慣れてきたら2のところまで手を上げていたり、各自がポーズを決めたり、動物の鳴き声など出す。カッパカッパ カッパ、カッパッパと手をカッパのマネをして手で膝を叩く、お互いの鼻や頭や肩をこちょこちょする。おにぎりおにぎり作りましょおにぎりの大きさをだんだん大きくしていく。スライド笛遊びを動かすと「おはよう」と言っているように聞こえる。小さい子どもたちが大好きな物の特徴は、不思議な心地よい音 まーるいもの 目がついているもの。ここでも子どもの成長発達を捉えた、子どもとのあそび方の大切なポイントが押さえられた。

何だろなカード遊び「なーんだろな なんだろな」と歌いながら絵を少しずつ見せたりかくれたり、不思議な動きをしてみる。マヨネーズの空容器の笛で1曲奏でる。ピアノとカンカンカンで汽車汽車シュッポッポ。2人組でお絵かき。交互に自由に書き入れ、出来上がった絵に「それは何ですか そこはどこですか？」と大森さんが語りかけ、2人は即興で応える。あそびのオンパレードが2時間展開され、子どもから教えてもらったという、「あそびの極意」をリアルに学べたワクワク感のある講座でした。

受講者からの声

・あっという間でした。特別な道具がなくても演じ方次第でこんなに面白い時間が作れるのかと驚きました。・すぐに使える手あそびやうたあそびから、工作も家に持ち帰ってもう一度作って、施設でやってみようと思えるものまで、とても参考になりました。・リーダーに似る、導きたい姿に自分になる！！キラッとしたリーダー、面白いリーダーになります。

行政からの声

・現場で働くみなさんの学びたい！という欲求に応えていただける、有意義な研修だったと思います。子どもをぐっと引き付けるポイント、子どもはまる（○）が好き、心地よい音、目を追うなど、参考になりました。・見る 聴く 触れるなど、いろいろな感覚を使って楽しめる内容でした

（コーディネーター 滝口淳子 中村雪江）

実施施設：印西市子育て支援課

講座プログラム名：「豊かな遊びわらべうた」



実施場所：印西市文化ホール多目的室

実施日時：2021年 11月 25日（木） 14:00～16:00

参加者数：総数 13人

大人 13人（保育士：2人 施設スタッフ：10人 行政：1人）

スタッフ数：パフォーマー講師1人（川中美樹）

コーディネーター2人（鈴木佳子 滝口淳子） スタッフ（買場都明 中村雪江）

プログラム内容

わらべうた実践編 お手玉あそび ふれあってあそぶ 千葉に伝わるわらべうた ミニシアター
講義編：わらべうたのおはなし コロナ禍でのわらべうた 意見交換・交流

当日の様子

円座で座り、お手玉遊びをいくつかやってみる。じゃこいちもんめ（山口県）ひとつぶつけてとんやれとんやれと1から10まで（遠野）。持参したお人形を長座した足に乗せ、川中さんは「1才半以上の子にやってあげてね、こういう風に頭、首、背中を支えてあげて…」と人形を子どもに見立てて気を付けることやそのわらべうたが何を考えて作られている動きか等を丁寧に話す。0歳児～3歳児対象のわらべうたおすすめ…馬はとしとし 手つてのねずみ しおぶりこぶり うっくん てんこてんこ にぎにぎ いないいない・・・千葉のわらべうた…鼻はなはな あがりめ さがりめ。「赤ちゃんは目が大好物」歌っている人のじーっと目を見るのよ。0歳の遊びは声のコミュニケーションで、同じことを日々繰り返すことの大切さ、子どもとの距離のとり方、語り掛けの速度など大切なポイントも話された。二人で顔を合わせて「はなはなはな」の遊びはいたずら心が育つことや、日常の楽しい遊び中で成長を促すことにもなることも学んだ。お月さまキットを使ったミニシアターのほんわかした雰囲気を実践編は終了した。

座学で講義編。わらべうたは、コダーイ、遠野のわらべうた、伝承わらべうたと三つある。川中さんのわらべ歌との出会いは、川中さんのお母さんが川中さんの娘さんが生まれたときにうたっているのを見たのが最初。赤ちゃんがじーっと声のする方を見ている、返すように声を出す、ある日突然まねをする。地方によって唄がちがうこと、言葉がちがうことの等伝承のわらべうたが地域に根ざしていること、そして今はドンドン伝承が途絶えている事。顔でおはなしや言葉が伝わる、身体からつたわる、声で「かもし出す」空気感となって子どもに伝わる。わらべうたは愛のシャワーであり人を育てるうた。わらべうたは、将来にわたり子どもの成長発達に影響を与える基本の基を育む貴重なうたであり、愛をもって子どもの育ちにきちんと向き合っている川中さんの言葉の一つ一つの厚みが参加者に届いた。

受講者からの声

電子系の音楽が溢れている現代でこそ、大切にしたいわらべうたを、今後活かしていきたい。/わらべうたの奥深さを知ることができ、毎日の支援の中に取り入れていきたい。/言葉だけでなく、手、耳、口、目と伝える方法はいっぱいある。愛のシャワー とても良い言葉です。/心穏やかに過ごせる時間を増やして、その時その時を大切に、時期をとらえて行きたい。/「赤ちゃんは目が大好物」というお話が印象的で、雰囲気や目、声から伝わるよう、子どもたちと関わっていきたい。/保護者の方にも伝えていきたい。
(コーディネーター鈴木佳子 滝口淳子)

ワークショップ17か所のポスター

おやこでいっしょにダンスあそび!

日時: 9月24日(金) 10:30~11:15
会場: 西白井複合センター
パフォーマー: 安西真幸



おやこでいっしょにダンスあそび!

日時: 10月12日(火) 11:00~11:40
会場: 西街道さつき幼稚園ホール
パフォーマー: 安西真幸



わらべうたあそび うたとおはなしのじかん

2021年10月8日(木) 10:00~11:00
会場: オートピア2F 放課児童室
パフォーマー: 大所 優さん



歌子さんのはじめてのコンサート



おやこでニコニコふれあいあそび!

2021年10月18日(月) 10:10~11:10
会場: 昭和学院ももこ・こどもセンター
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



にこにこけしじょう

2021年 10月18日(月) 10:15~10:55
会場: 小島中央自治会館1階ホール
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



にこにこけしじょう

2021年 10月20日(水) 10:30~11:10
会場: 10階1029号
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



にこにこけしじょう

2021年10月21日(木) 10:30~11:10
会場: 10階1029号
会場: 野田北コミュニティセンター
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



おやこでいっしょにダンスあそび!

日時: 2021年10月22日(金) 10:00~10:50
会場: おやこDE広場小金原 1F和室
パフォーマー: 安西真幸



にこにこけしじょう

2021年10月22日(金) 11:00~11:40
会場: そらみけつこの広場
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



おやこでニコニコふれあいあそび!

2021年10月28日(木) 10:20~11:10
会場: 子育て支援センター 鶴岡
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



おやこでいっしょにダンスあそび!

日時: 11月11日(木) 10:15~11:15
会場: 習志野市 こどもセンター
パフォーマー: 安西真幸



歌子さんのはじめてのコンサート



おやこでいっしょにダンスあそび!

日時: 11月25日(木) 10:30~11:30
会場: 白井老幼の館ホール
パフォーマー: 安西真幸



歌子さんのはじめてのコンサート



みんなニコニコふれあいあそび!

日時: 2021年(日) 10:00~10:40
会場: おやこ広場 新 うさぎとわらべ
パフォーマー: 劇団鳥の子 大森 謙哉さん



わらべうたあそび!

2021年2月20日(金) 10:00~11:00
会場: コニコニコ 劇団鳥の子
パフォーマー: 大所 優さん



「新型コロナ感染防止対策について」



2020年8月 (特) 子ども劇場千葉県センター

0.1.2.3 歳児とその親のためのワーク&舞台上演実施にあたり、新型コロナ感染防止について、子ども劇場千葉県センターの考え方と、演技者と共に行う具体的対策・できることについて以下のように記しました。

■ (特) 子ども劇場千葉県センターの考え方

感染防止については、100%の安全は保証できませんが、私たちができることはすべてやるということと、安全を高め安心の保証をしっかりとしておくという姿勢で臨みます。

そのために、事業実施の際には、主催者、スタッフ、演技者、親（施設の保育士等）と一緒に「こういう考え方でやろうね」と、事前の理解と共有を丁寧に行うことが大切だと考えています。親たちが過度な緊張感をもたないように、「リラックスして楽しんでください」というやさしい対応や雰囲気も心がけます。

■ 打合せでは十分なヒアリングと意見交換を行います

当団体や演技者の感染防止対策をお伝えし、実施施設の現状や対策、意向、心配なことを十分お聴きします。相談や打合せを丁寧に行い、実施内容を確認します。

実施当日は、親たちがわが子の動きに敏感になることが考えられます。このワークでは、0歳～3歳は自由に動き回るのを、動くそばから止めることは控えます。うれしさの余り突進してくることがあっても上手に対応します。そういうハプニング的なことはあり得ることも予測し、演技者・スタッフが丁寧にメッセージを伝え、親子が安心して楽しめるようにします。

■ スタッフ・演技者の感染対策 安心につながる対応

- ① 手洗い、うがい、マスク着用、大きな声や必要以外の会話を控える、小道具等の消毒、配布物の手渡しは避ける等、基本的な感染防止はしっかりと行います。
- ② 当団体のスタッフ及び演技者は、実施14日前から健康チェックシートにて健康チェックをし、実施日に責任者が全員の健康を確認します。必要に応じて実施施設への提出もいたします。（体温測定 発熱、倦怠感、頭痛、咳、のどの痛み、鼻水・鼻づまり、腹痛、下痢、嘔吐、味覚・臭覚異常の11項目をチェック）
- ③ 三密を避けるため・ある程度の空間をつくるために、会場の広さによって募集参加者数を決めます。窓を開け放って行い、必要に応じ扇風機等も使用します。それでも換気が十分でない場合は、簡易なサーキュレーターの持ち込みが可能です。演技者と参加者の距離を保ち、実施施設的环境下で、最善の工夫と対応をします。
- ④ 実施当日は必要に応じ、スタッフ・演技者共に洗濯した着替え（上下服と靴下）を持参し、会場にて着替えます。
- ⑤ 施設の要望やガイドラインに添って行動します。（入口での体温検査、訪問記録、アルコール消毒等、施設が決めた事項）
- ⑥ 当日は参加した親たちへ、安心して楽しい時間にするための協力をお願い等、配布物を置いておきます。演技者からもひとこと協力のメッセージもします。

**「0歳～2歳児と親が笑顔になるワークと施設スタッフ支援力向上」事業
実績報告書**

発行日：2022年 3月 25日（金）

発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6

サンコート新千葉 102号

TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263

E-mail：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします



WAM助成

独立行政法人若狭県社会福祉推進機構

令和3年度社会福祉振興助成事業

主催：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

E-Mail: kidchiba@lily.ocn.ne.jp <https://chiba.gekijou.org/>